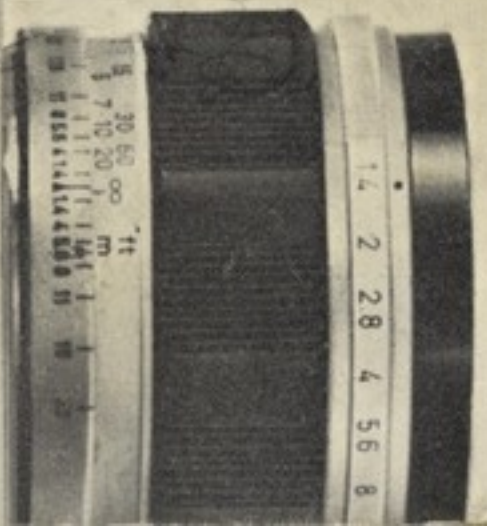
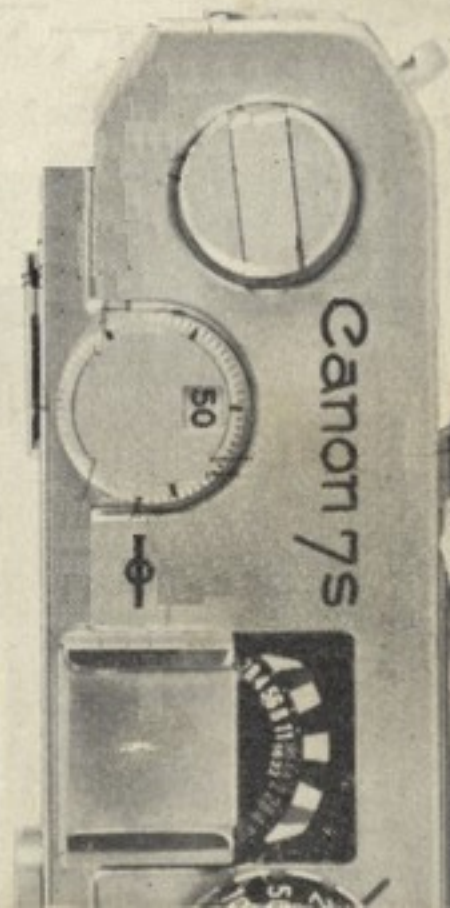
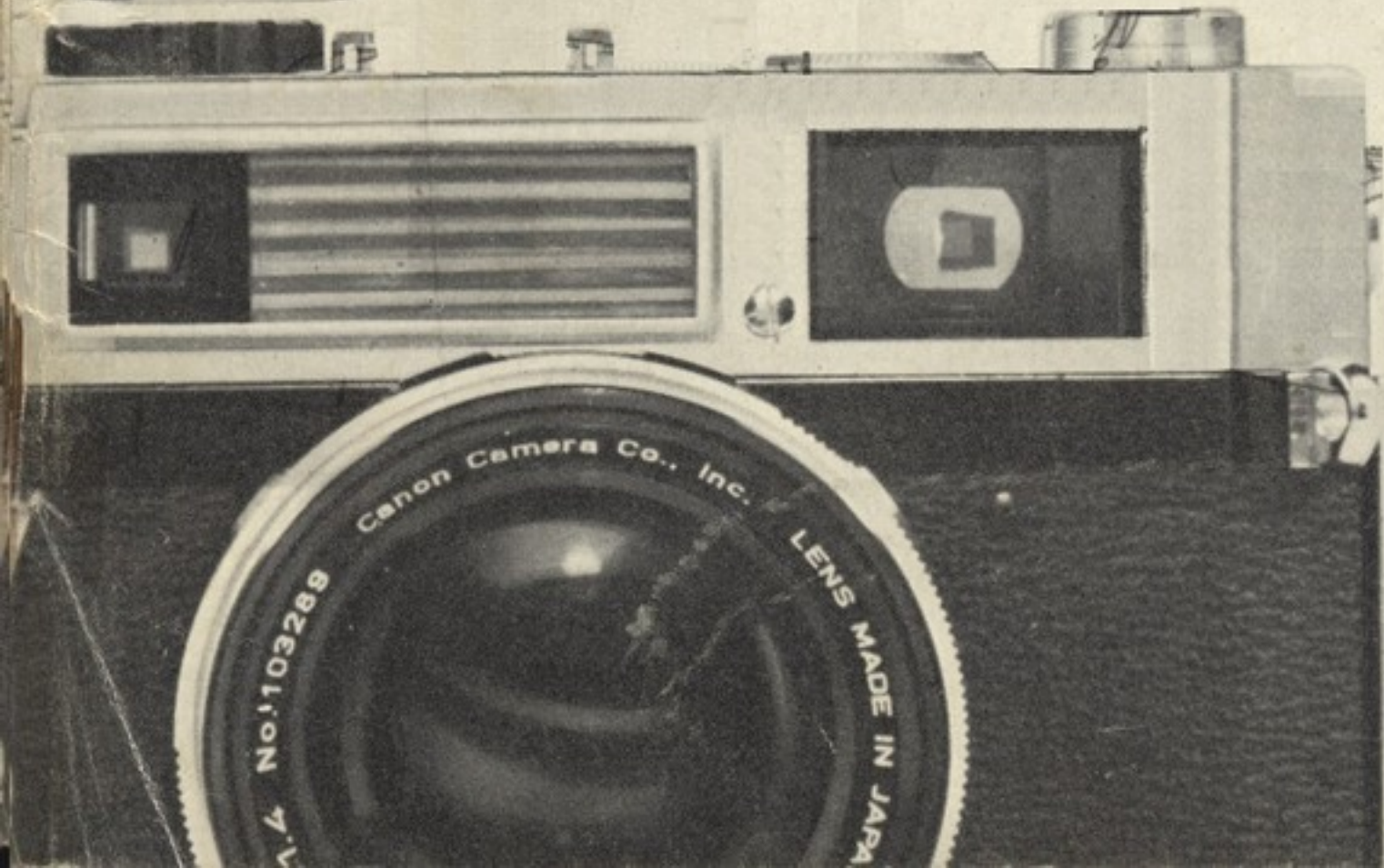
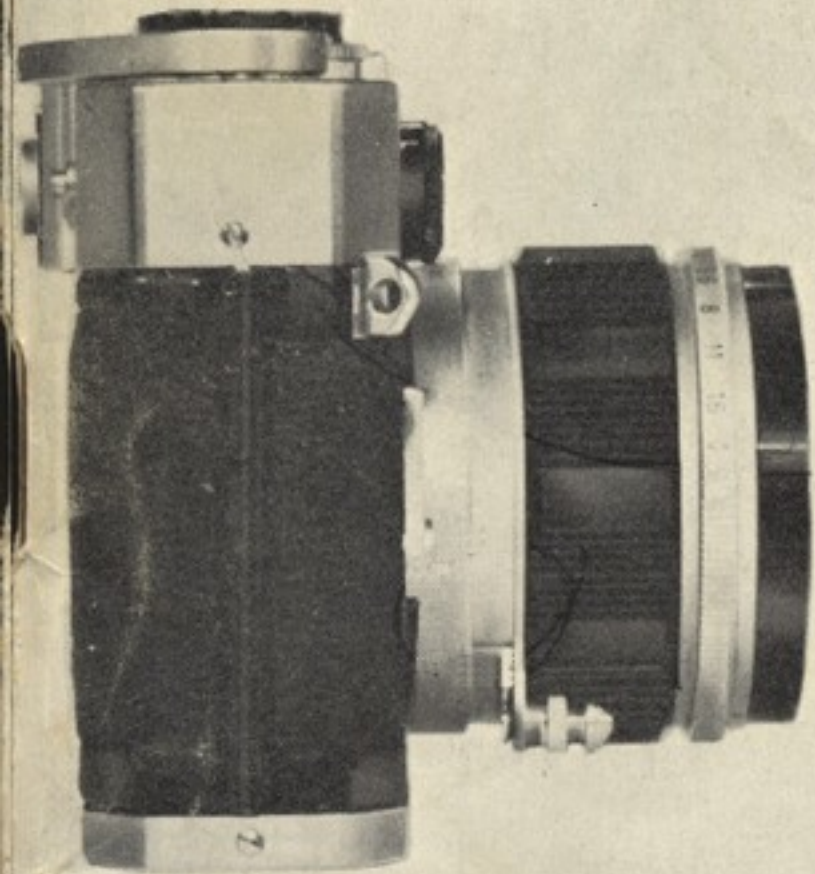
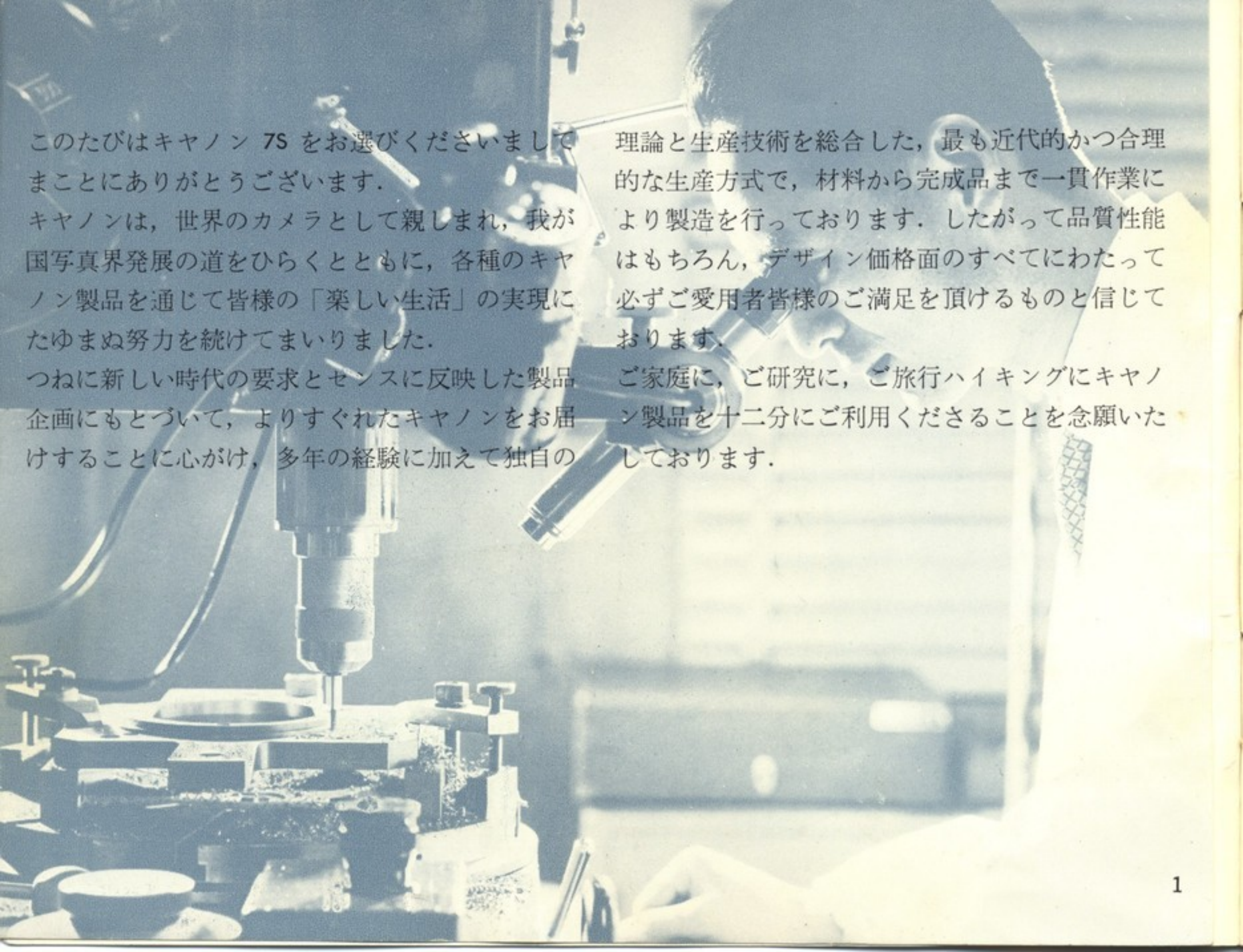


Canon 7s

使用説明書





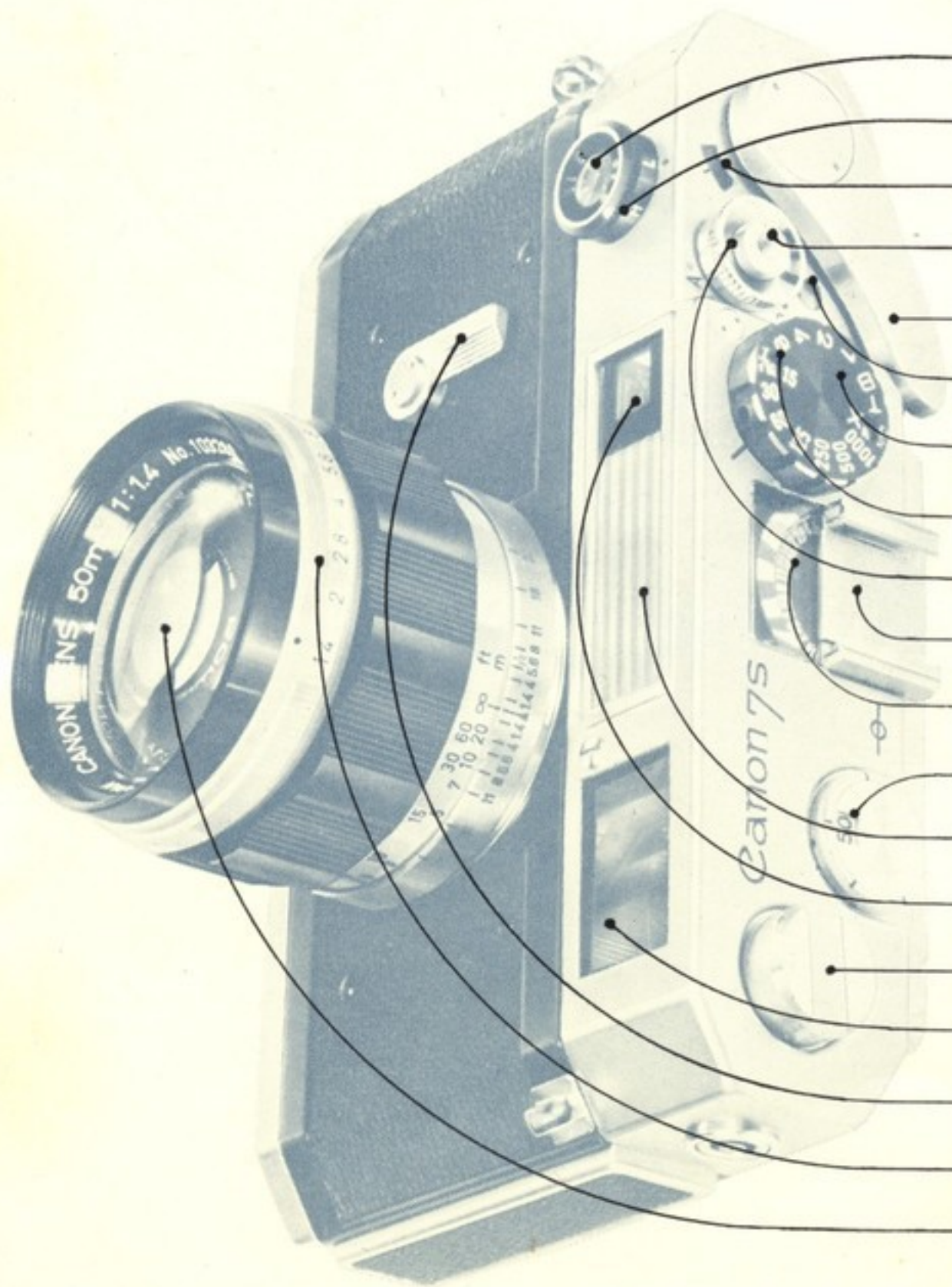
このたびはキヤノン 7S をお選びくださいますこと
にありがとうございます。

キヤノンは、世界のカメラとして親しまれ、我が
国写真界発展の道をひらくとともに、各種のキヤ
ノン製品を通じて皆様の「楽しい生活」の実現に
たゆまぬ努力を続けてまいりました。

つねに新しい時代の要求とセンスに反映した製品
企画にもとづいて、よりすぐれたキヤノンをお届
けすることに心がけ、多年の経験に加えて独自の

理論と生産技術を総合した、最も近代的かつ合理
的な生産方式で、材料から完成品まで一貫作業に
より製造を行っております。したがって品質性能
はもちろん、デザイン価格面のすべてにわたって
必ずご愛用者皆様のご満足を頂けるものと信じて
おります。

ご家庭に、ご研究に、ご旅行ハイキングにキヤノ
ン製品を十二分にご利用くださることをお願いいた
しております。



—CdS 受光窓

—メーター感度切換えリング

—フィルム枚数計

—シャッターボタン及び
レリーズソケット

—巻上げレバー

—フィルム巻戻し指標

—シャッターダイヤル

—フィルム感度表示小窓

—フィルム巻戻しリング

—アクセサリシュー

—メーター読取り窓

—レンジ・ビューファインダーセレクター

—ファインダーマーク照明窓

—レンジファインダー窓

—巻戻しクランク

—レンジ・ビューファインダー窓

—セルフタイマーレバー

—絞りリング

—キャノンレンズ

キヤノン7Sの主要性能

型式

距離計連動 35mm フォーカル プレーン カメラ

内蔵メーター

シャッター ダイヤルに連動する読取り式. CdS メーター内蔵. EV2~11, EV10~19 (ASA100) の高低2段切換え式. 使用感度は ASA 6~400. MD型 1.3V 水銀電池 1コ使用.

バッテリーチェッカー

水銀電池用チェッカー内蔵.

シャッター

1/1000~1秒の倍数系列および B・T・X の等間隔目盛一軸シャッターダイヤル. 金属幕使用のフォーカルプレーン シャッター.

ファインダー

ブライト フレーム変換式のユニバーサルマークファインダー. 35mm用, 50mm用, 85mm および 100mm用, 135mm用の4段階. パララックス連動矯正式. 倍率0.8倍.

レンズマウント

キヤノン標準スクリュー マウント および 3爪のバヨネット マウントをもつダブル マウント形式バヨネット マウント は 50mm F 0.95レンズおよ

びミラーボックス2型装着用.

標準レンズ

50mm F0.95, F1.2, F1.4, F1.8 の4本.

交換レンズ

19mm F3.5 超広角から 1000mm 超望遠まで各種.

シンクロフラッシュ

FP接点および X 接点. FP 級, M 級, F 級, スピードライトに同調可能. タイムラグ自動調整式. JIS B 型ターミナル.

内蔵セルフタイマー

シャッターボタンで始動する時限調節式.

巻上げレバー

1作動 125° 回転レバー, 小刻み巻上げ可能. 余裕角25°.

フィルム巻戻し

巻戻しリングおよびクランクによる.

フィルム装填

裏蓋開閉式. パトローネ, マガジン両用.

フィルム枚数計

自動復帰順算式.

大きさ・重量 140mmX81mmX31mm/630g(ボディ)
その他, 各種安全装置, アクセサリー完備など.

ご使用のはじめに

慣れることが大切です。

カメラをお持ちになったら、まず各部の扱い方をマスターしましょう。フィルムをつめる前にレバーの巻上げや、メーターの使い方などを一度試して、完全に自分の頭の中に入れてください。そうすればあなたの目と同じようにカメラを思いのままに駆使することができます。

使用書をお読みください。

カメラも機械ですから、正しい扱い方がありません。必ず使用書をお読み頂き、つまらぬ失敗をさけてください。

操作の手順として、まず巻上げからご説明いたします。



目次

- 水銀電池のつめ方..... 6
- 巻上げ..... 8
- シャッターと絞りの調節.....10
- 連動メーターの使い方.....12
- カメラの構え方.....17
- ピントの調節.....19
- フィルムのつめ方.....21
- フィルムの巻戻し.....28
- セルフタイマー.....30
- フラッシュ同調.....31
- レンズの特別な取扱い.....32
- 二重露出.....38
- キヤノン専用マガジンとフィルムのつめ方...39
- フィルター.....41
- 撮影手順.....43
- カメラの保存手入れ.....48



水銀電池のつめ方

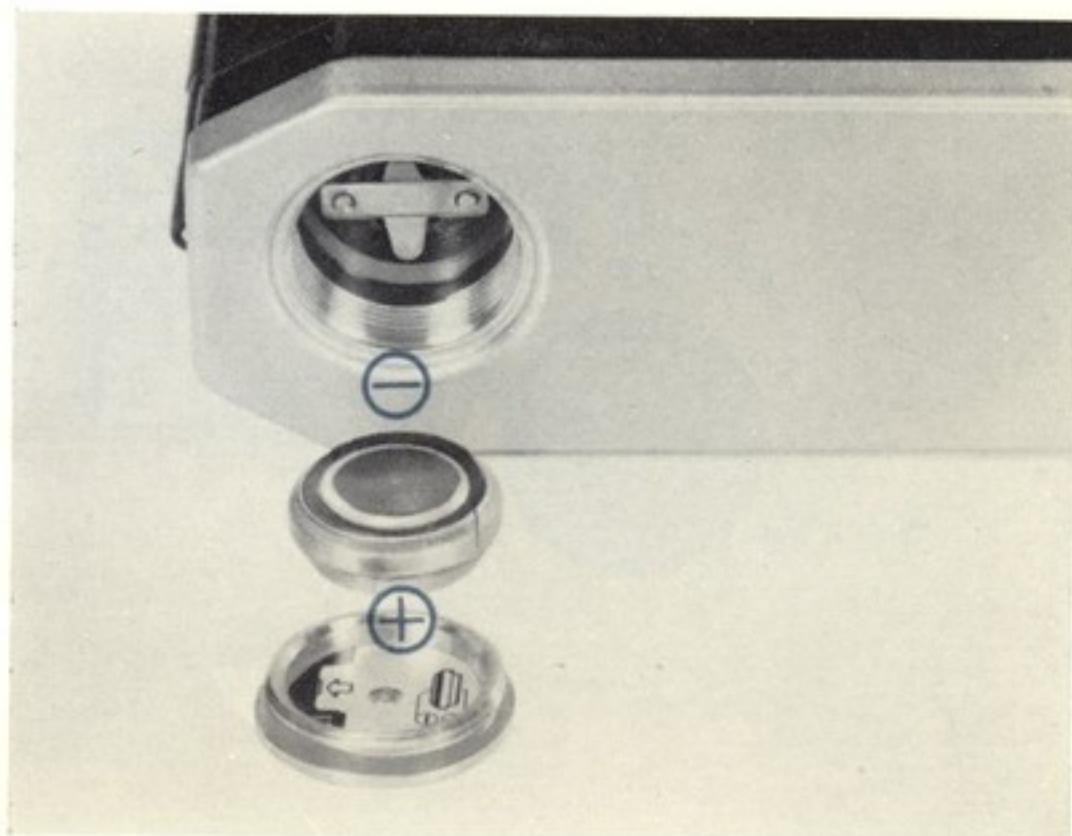
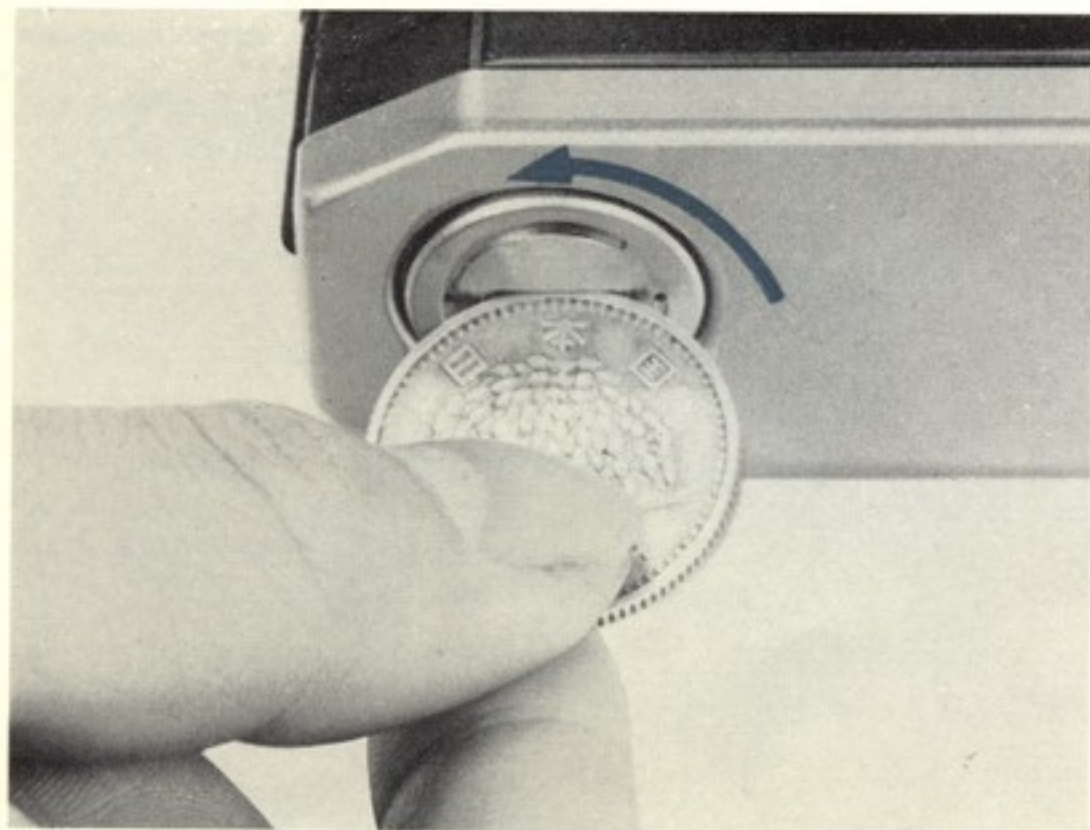
別封の水銀電池を電池室につめてください。
水銀電池は内蔵のCdSメーターの電源ですから、
入れ忘れるとメーターが作動しません。

1. 水銀電池室カバーに硬貨をあてがい、左回しに回してはずし、
2. 水銀電池の中心接点のある方を奥に向けて押しこみ、カバーをねじこみます。

挿入のさい ⊕ ⊖ を間違えぬこと。逆に入れるとメーターが正しく作動しませんし、カバーもねじ

こめません。

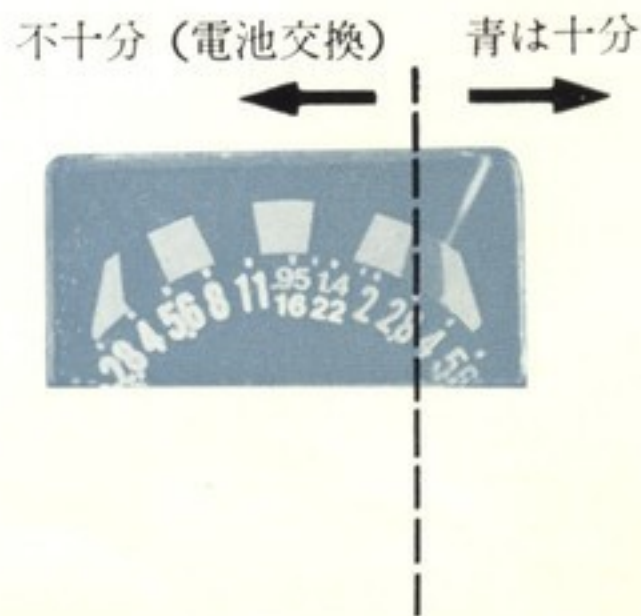
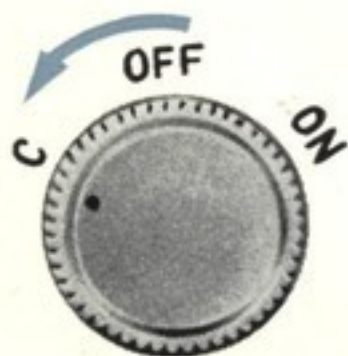
- * 水銀電池は ナショナル製 MD 型 または 東芝製 TH-MC が使用され、米国の Mallory RM-625, Eveready E-625, General No. 625 に相当するものです。約1カ年の連続使用に耐えます。
- * 汗や指紋をつけぬこと
水銀電池は乾いた布でよく拭いてから入れること。殊に中心接点は汚れをきらい、汚れたまま挿入しますとカメラの接点を損うおそれがありますから、十分ご注意ください。
- * 長期間使用しないときは、水銀電池は取りはずして乾燥した場所へ保存しておいてください。



バッテリーのチェック

水銀電池を挿入したときは、必ずバッテリーチェックをしておきます。特に市販の新電池と交換したときは、電圧を確かめることが必要です。

1. 回路切換えスイッチを回してCに指標を合わせ、
2. メーター指針の振れで電池の良否を確かめます。指針が縞目ガイドライン右側の青色部まで振れれば電圧は十分、その左側部で止まれば不十分で、電池の交換を要求しているわけです。



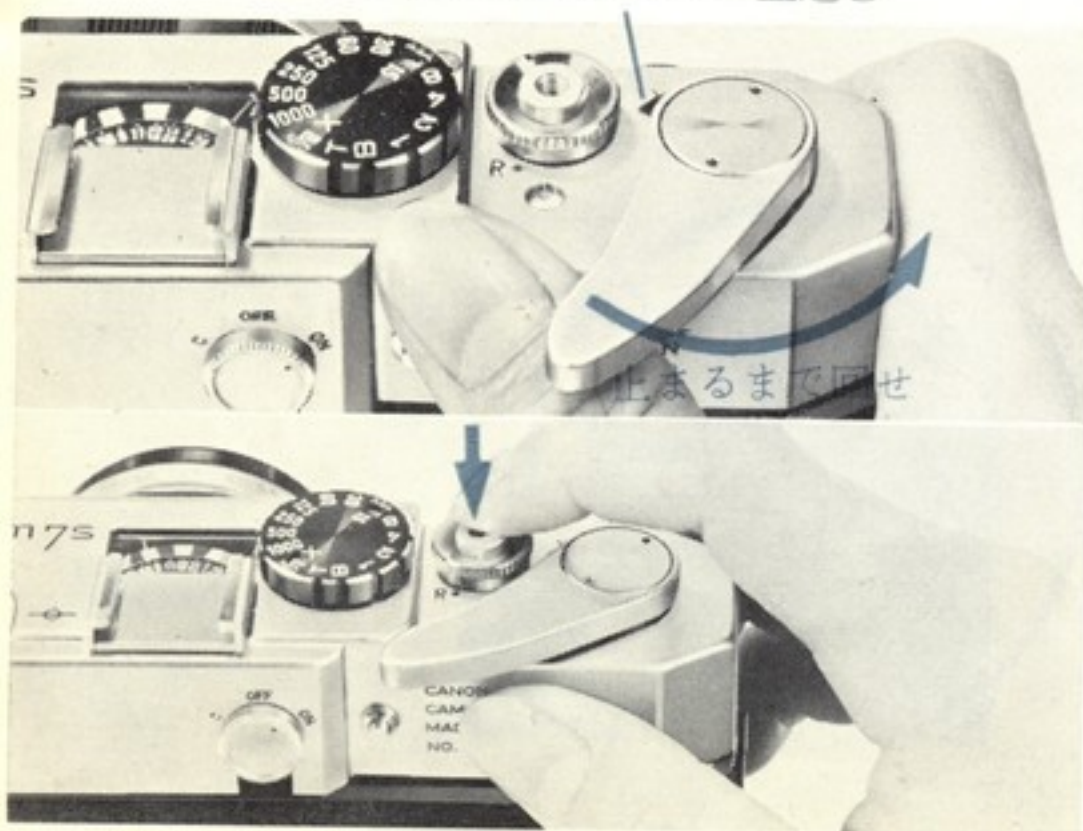
巻上げ

巻上げレバーは、シャッターチャージとフィルムの巻上げを1回で行なうものです。

1. 巻上げレバーを完全に止まるまで回すとフィルムが1コマ分送られ、シャッターが巻上げられます。同時にフィルム枚数計も1目盛進みます。
2. シャッターボタンを押すとシャッターが作動します。

巻上げレバーは、シャッターの作動後、直ちに巻上げできる状態になります。

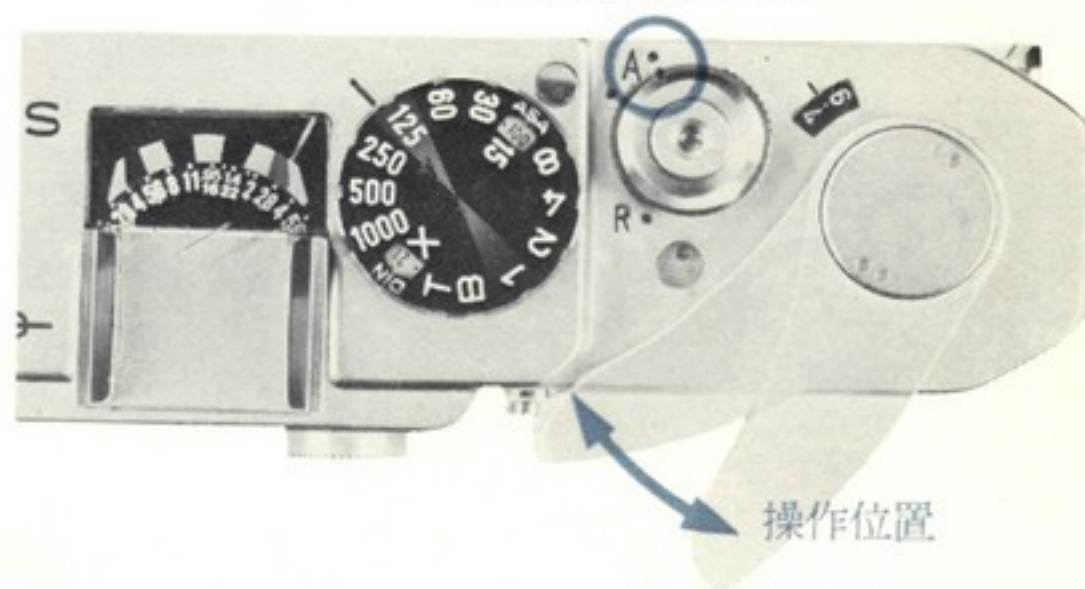
フィルム枚数計が1目盛進む



- 巻戻しリングの指標がAの位置になければなりません。
- 巻上げは、レバーを小刻みに動かしてもできます。
- 巻上げレバーを使わないときは畳みこみ位置に戻しておきましょう。
- フィルム装填後第1回目の巻上げのとき、レバーが空送りすることがありますから、念のためもう一度止まるまで動かしてください。

※巻上げが完全でないと、シャッターボタンを押してもシャッターが作動しません。その場合には、もう一度巻上げを確かめてください。

指標をAに合せる

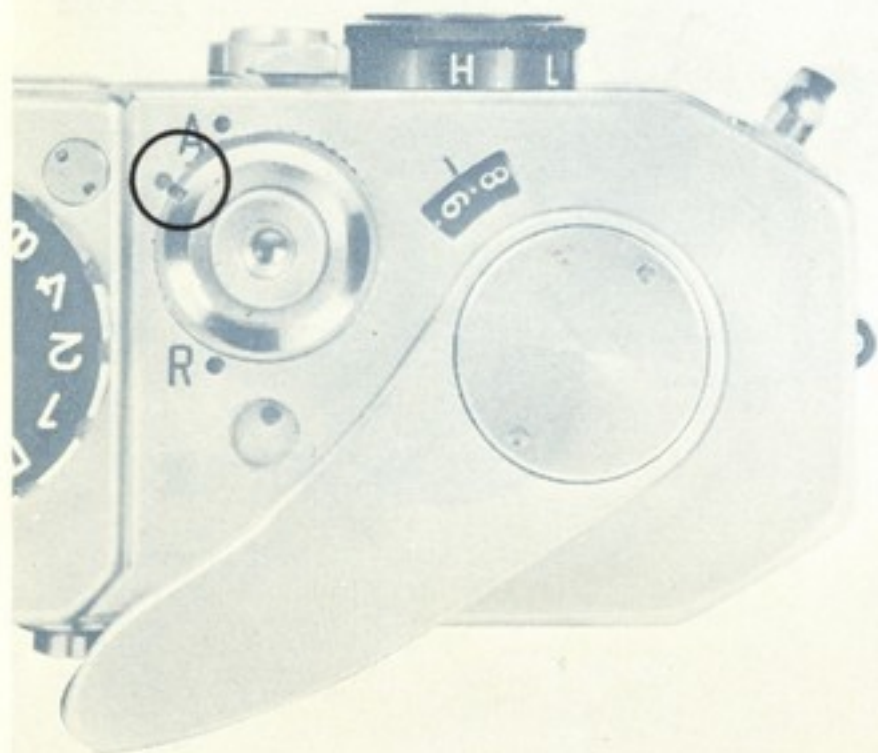


シャッターの安全装置

●巻上げたのち、巻戻しリングの指標を赤点に合わせると、シャッターがロックされて動きません。巻上げたままで携帯するときやケーブルリリースの取付けに利用します。

撮影枚数表示

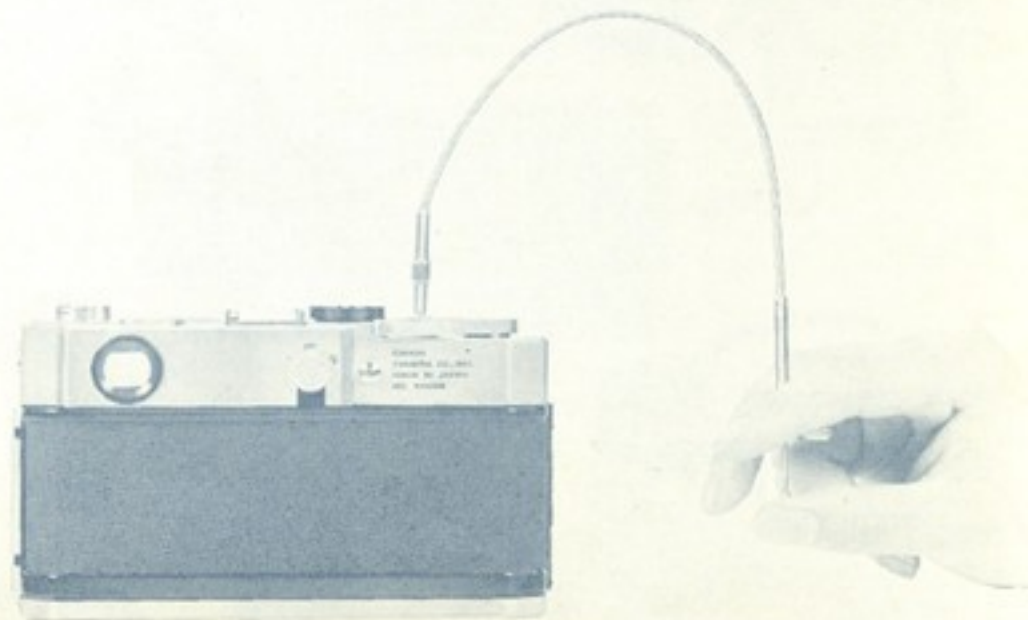
フィルムが1コマ巻上げられるごとにフィルム枚数計が1目盛進んでフィルムの撮影枚数を知らせます。目盛は裏蓋を開くと自動的にスタートマークSまで戻ります。



リリースの取付け

シャッターボタンには、ケーブルリリースがつきます。

リリースを取付けるにはレバーを巻上げる前に行なってください。



シャッターと絞りの調節

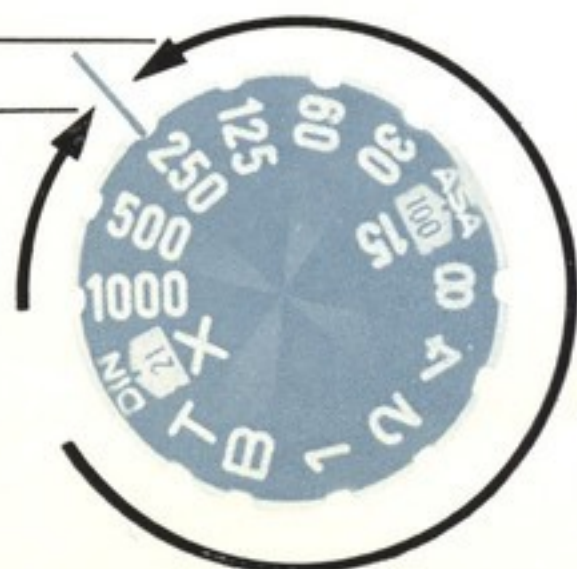
シャッターを開いてフィルムに光を与えることを露出または露光といいます。シャッターと絞りは、この露出の調節をするもので、シャッターは露出時間の調節を行ない、絞りは光の量を調節します。7 S では連動メーターを使用して、簡単に適正露出が得られます。(12頁)

シャッターダイヤル

これを回して、必要の目盛を指標に合わせるとスピード調節が行なわれます。

ダイヤル上の目盛は 1/1000秒、1/15秒などという場合の分母が目盛られています。

X で止まったら
反対に回す
1000で止まったら
反対に回す



1000～X間は指標に合わない

- * 1000～X目盛の間は指標に合わせられません。
- * Bはバルブ露出で、シャッターボタンを押している間シャッターが開いていますから、1秒以上の長時間露出に用います。
- Tはタイム露出で極長時間露出用です。シャッターボタンを押すとシャッターがひらいたままになり、シャッターダイヤルをBの方へ少し回すと閉じられます。
- * X目盛はスピードライトの同調用です。シャッタースピードとしては1/60秒ですが、実際にはスピードライトの閃光時間だけのごく短い露出に相当します。
- * 目盛のセットはカチッと止まるクリックストップの位置に行なってください。

レンズの絞り

絞りリングを回して必要な目盛を指標に合わせます。これによって光量調節や被写界深度（36頁）の調節が行なわれます。

* 絞りは、その数値が大きくなるに従って暗くなり、目盛の一段ごとに明るさが半分になるようになっています。したがって絞りを1目盛絞りこんだときは露出時間を2倍にし、2目盛絞りこんだときは露出時間を4倍にしなければなりません。絞りは目盛の中間も用いることができます。レンズによっては、最大口径の絞りと次の絞りとの間にだけ、明るさ半減の関係がないものもあります。

* キヤノン 7S では連動メーターによりシャッタースピードに対応する絞り値を容易に決めることができます。

* 絞り目盛と露光量の比率は F2 を基準として次の通りです。

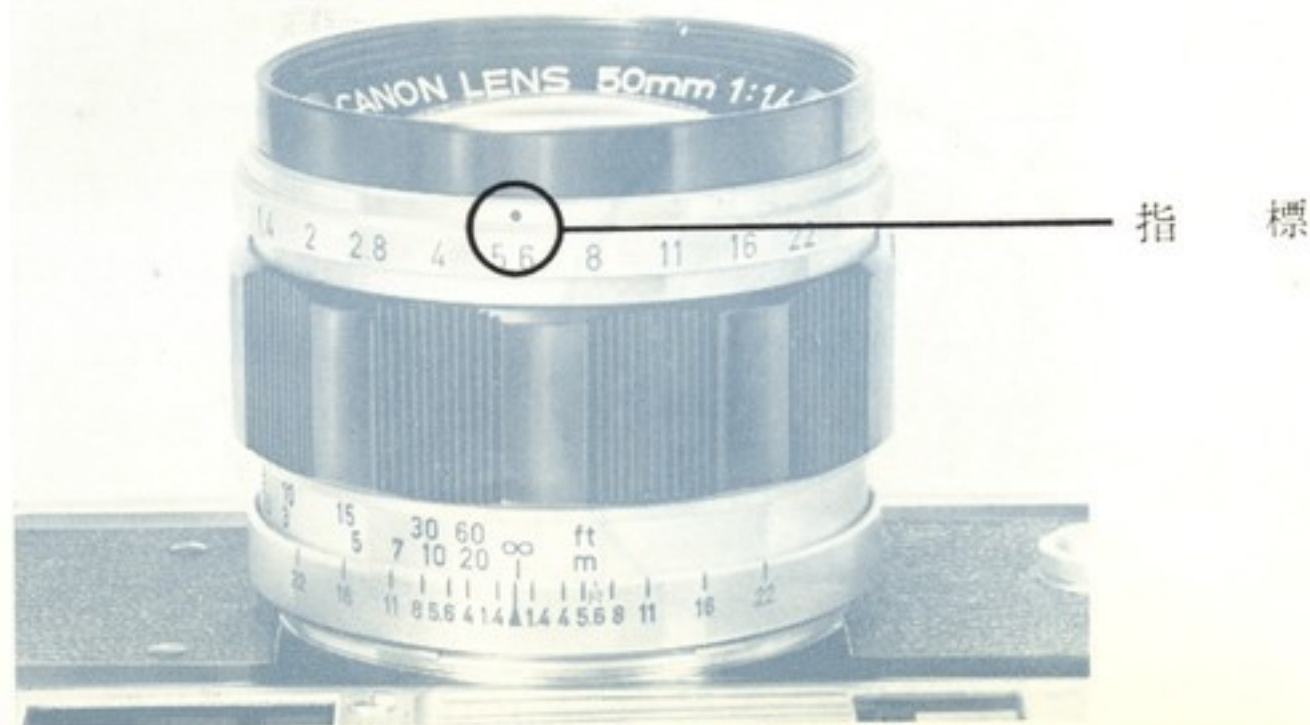
絞り 値

0.95 1.2 1.4 1.8 2 2.8 (3.5) 4 5.6 8 11 16 22

露出比率

1/4 1/3 1/2 1/1.2 1 2 (3) 4 8 16 32 64 128

* 絞りリングは目盛の中間にセットしてもさしつかえありません。

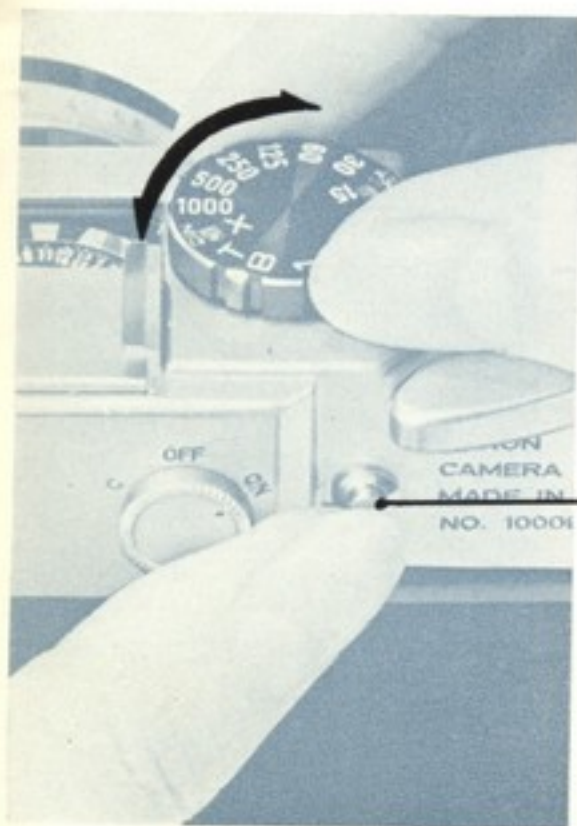


連動メーターの使い方

キヤノン 7S のメーターはシャッターダイヤルに連動している、絞り読取り式で、被写体の明るさに応じてつねに適正露出の撮影が簡単に行なえます。露出のきめ方にはシャッターを先に選ぶ場合と絞りを先に選ぶ場合の2通りありますが、いずれにも習熟されることが、良い写真を写すためにも必要です。

その準備

- ①使用フィルムの感度を小窓に出します。それにはカメラ背部のボタンを押しこんだままシャッ



フィルム感度
セット用押し
ボタン

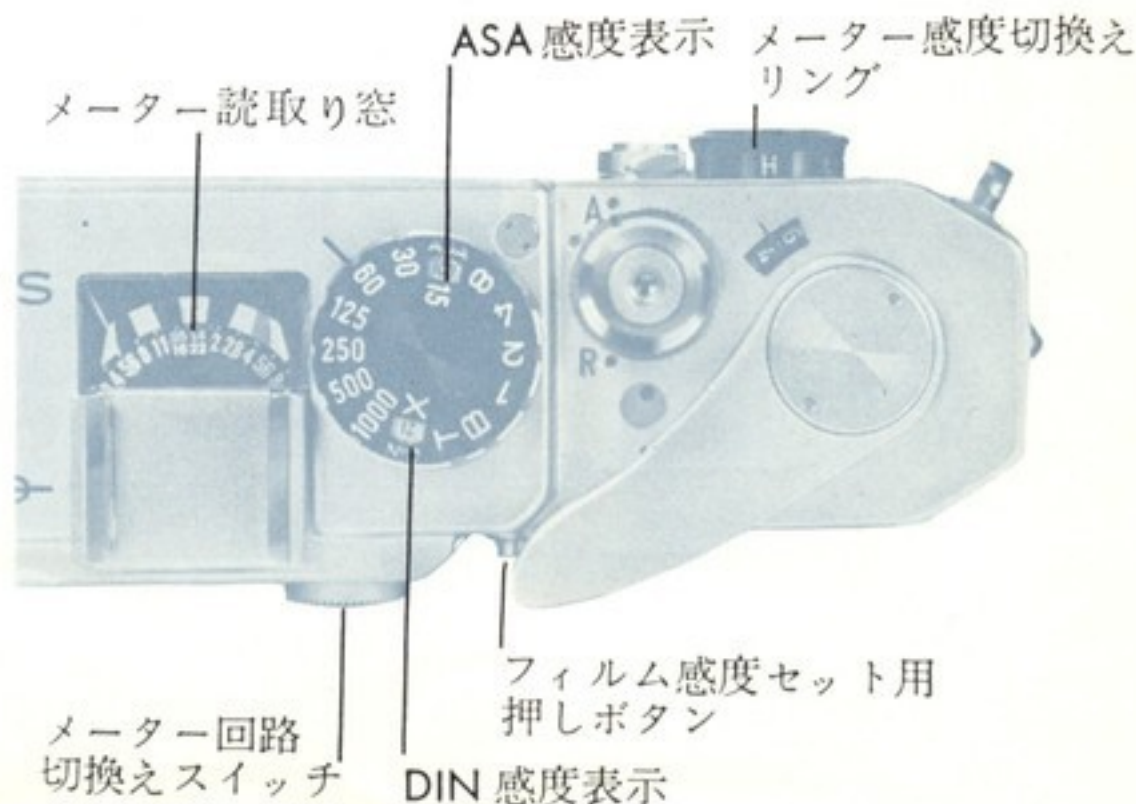
ターダイヤルを回してやります。SSフィルムなら100, Sなら50をASA小窓に出します。小窓に ASA64 が出るとそれ以上左へ回せません。逆に400が出たときは右へ回せません。

* 使用できるフィルム感度は

						(64)	(125)	(250)	
						(80)	(160)	(320)	
ASA	6	10	16	25	32	50	100	200	400
	9	11	13	15	16	18	21	24	27
						(19)	(22)	(25)	
						(20)	(23)	(26)	

- ※中間の黒点はカッコ内の感度に相当します。
- ※フィルム感度は外装箱または説明書に明示されています。

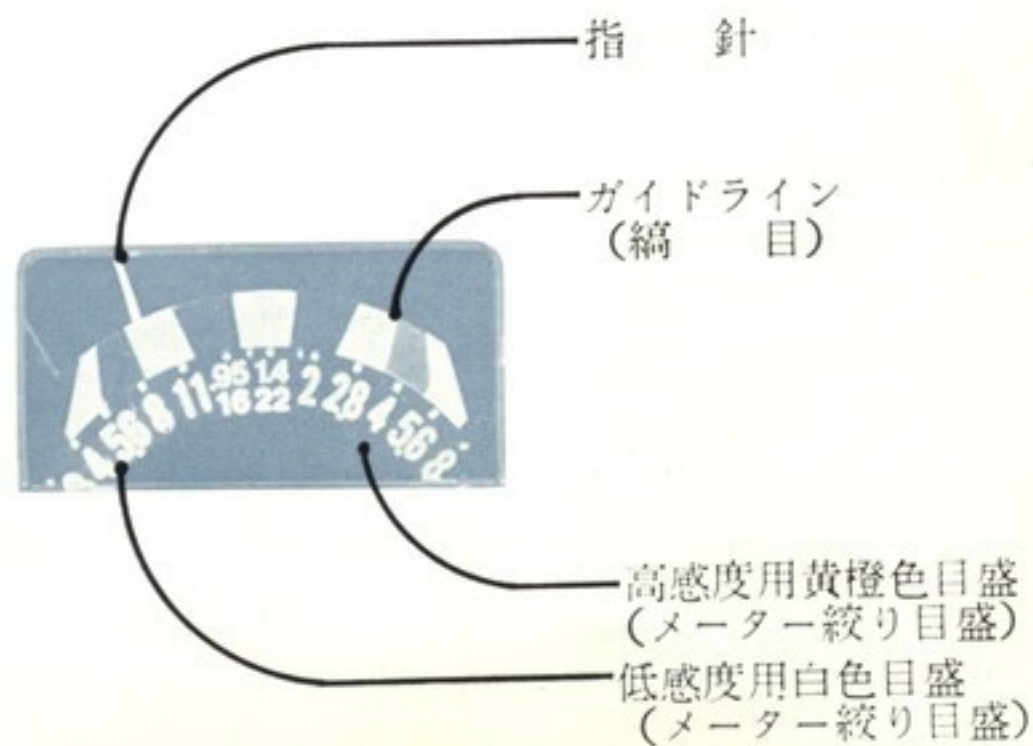
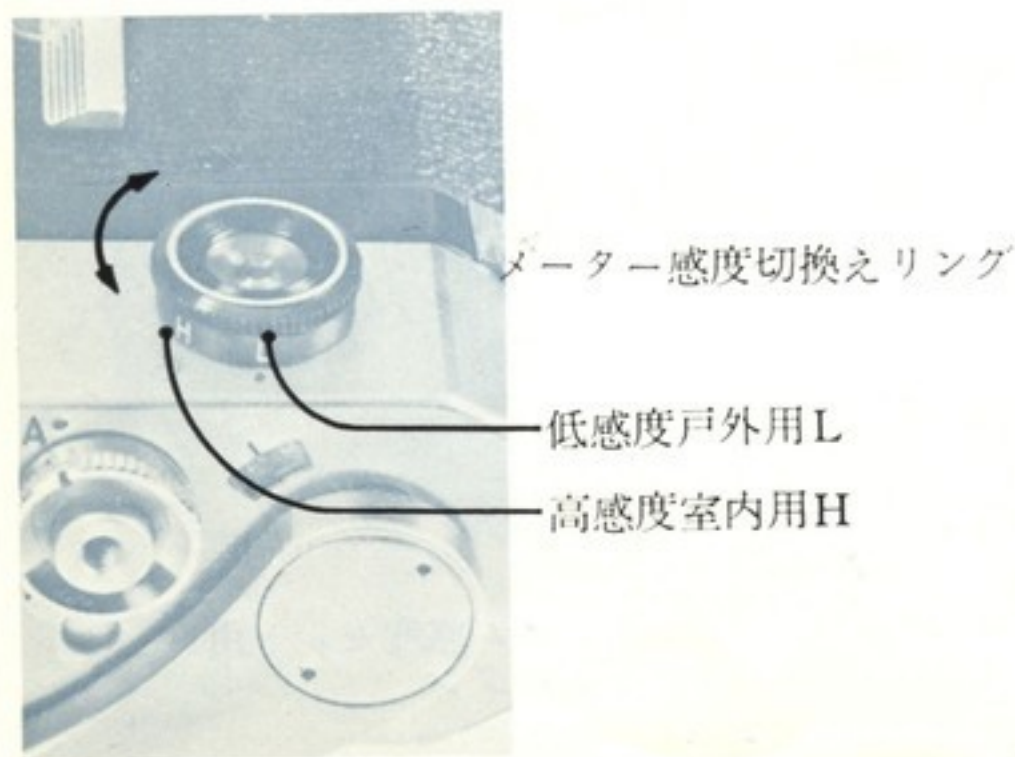
- ②スイッチをONに回します。



3. メーター感度をきめておきます。
 通常の明るい戸外では感度切換えレバーを回して低感度用Lを黒点に合わせます。
 室内または日没前の戸外では高感度用Hを合わせておきます。

* メーターの感度は高低2段切換え式です。高感度用（暗い被写体）ではEV2～EV11（ $1/4$ 秒 F1～ $1/500$ 秒 F2）低感度用（明るい被写体）ではEV10～EV19（ $1/500$ 秒 F1.4～ $1/1000$ 秒 F22）

4. 低感度で使用するときはメーター指示窓の絞り目盛は白色数字を用い、高感度の場合には黄橙色数字を用います。



露出のきめ方 1

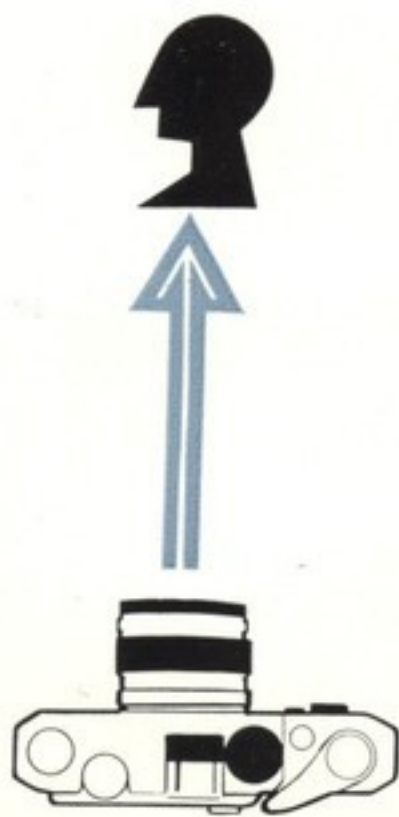
1. レンズの絞りをセットします。
2. 被写体にカメラを向けるとメーター指針の位置がきまります。
3. シャッターダイヤルを回してレンズの絞りと同じ数字を指針の止っているガイドライン（縞目）に合わせます。
4. シャッターダイヤルはクリックストップの位置にセットしてください。

これで適正露出にセットされたわけです。

- * 明るさを測定するときメーター受光窓を手でふさがぬようご注意ください。

受光角が約 40° ですから余分な光に妨げられず、主被写体を正確に測定することができます。

- * シャッターダイヤルの B, T, X 目盛は意味がありませんから用いないでください。
B, T は1秒以上の長時間露出, X はスピードライト（ストロボ）用ですから露出計では測定できません。
- * 絞り目盛の読取りはガイドラインに沿って行います。
- * メーター使用中明るさの変化によって針の動きが鈍る場合がありますが CdS の特性によるものですから心配ありません。



露出のきめ方 2

1. 希望するシャッタースピードをセットして.
2. カメラを被写体に向けます.

3. 指針の指示する目盛を読みとり, レンズの絞りをセットします.



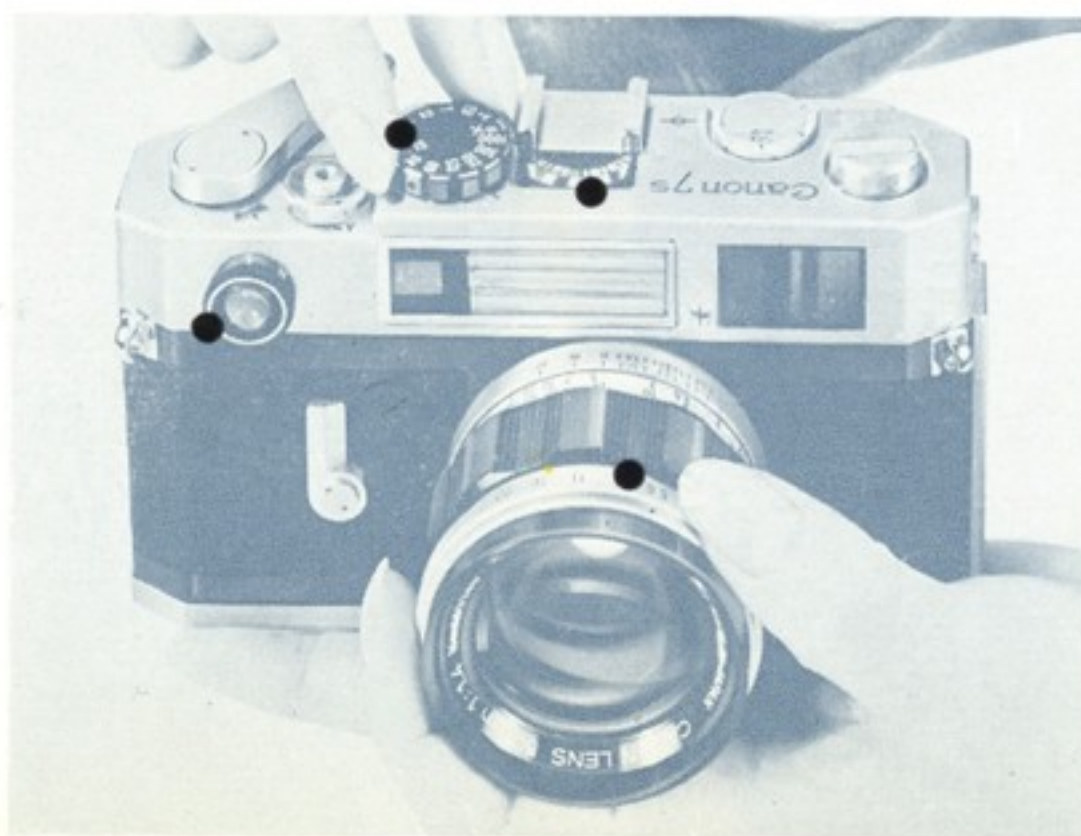
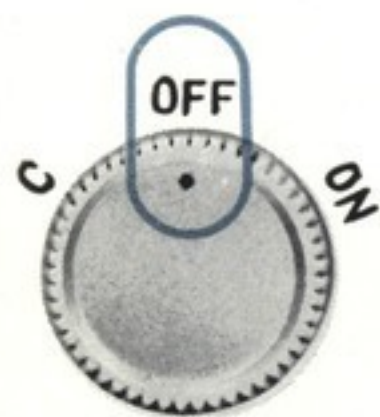
- * シャッターダイヤルは目盛の中間が使いませんが、絞りは目盛の中間も連続的に利用できますから、露出を厳格に考える場合はシャッタースピードを先に決め、これに応じて絞りを加減することが最も合理的といえましょう。
- * カメラを長く使用しないときは必ずスイッチをOFF にしておいてください。またバッテリーチェックも必要に応じて行ってください。

空、雪、海などのような明るい風景をバックにして人物撮影を行うときには、人物が露出不足になることがあります。これはメーターが明るいバックに感じすぎ、かんじんの人物に正しい露出を示さないからです。このようなときには被写体の近くで測定してください。逆光線下の撮影では特に注意してください。

逆光撮影ではバックあるいは主被写体のいずれに重点をおくか、あらかじめ結果を予測して露出をきめることが大切です。

またメーター指針を読取るときもカメラを上向きにしがちですからご注意ください。

極寒地では、カメラは撮影時以外直接外気に触れさせないように保護し、また手早く撮影を済ませるのが望ましいことです。そうすれば機能を落さずにすみませす。撮影に取出す場合も徐々に外気に触れさせませんと水分の凝結でレンズ面がくもり、撮影のできないことがあります。

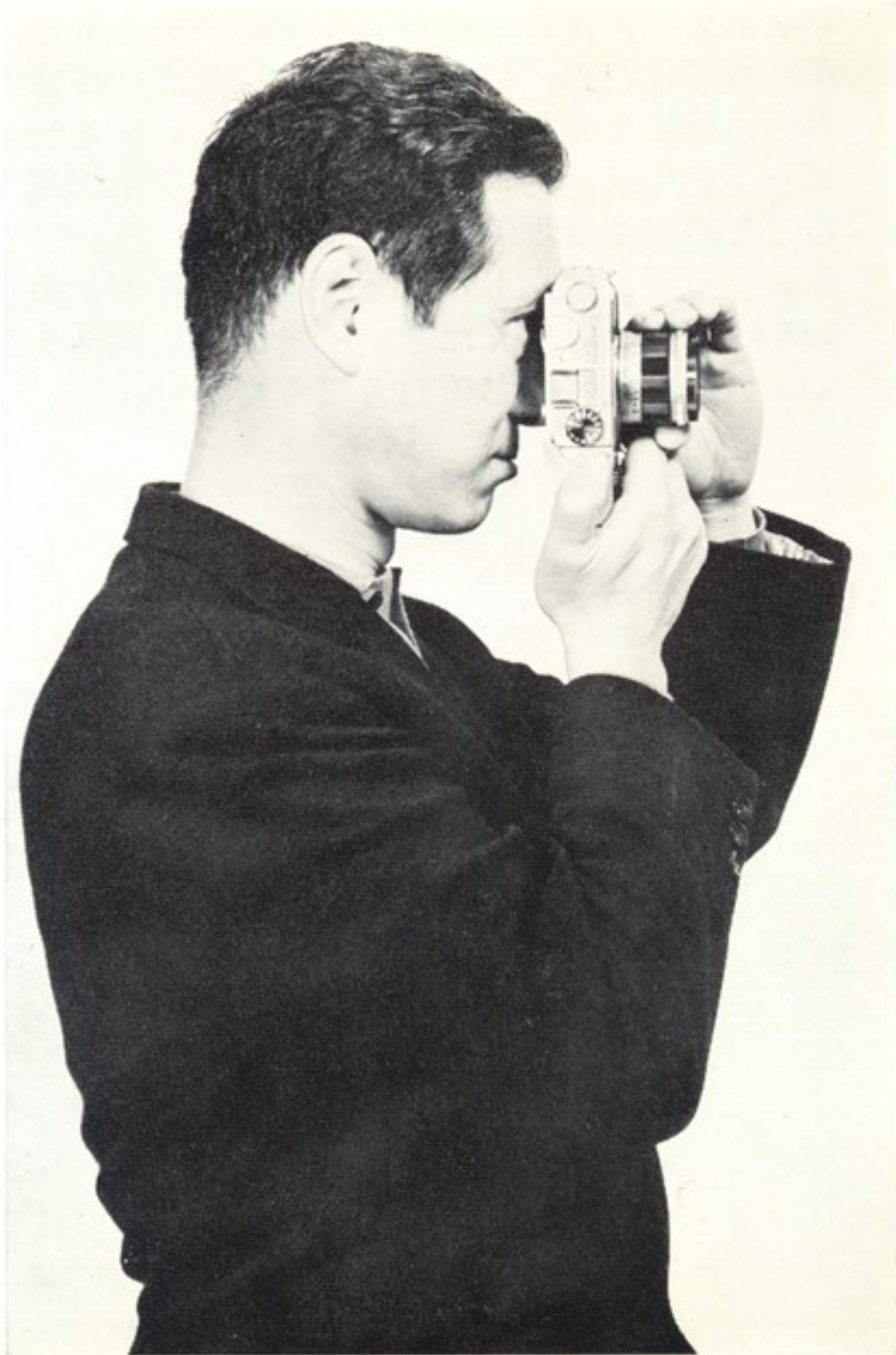


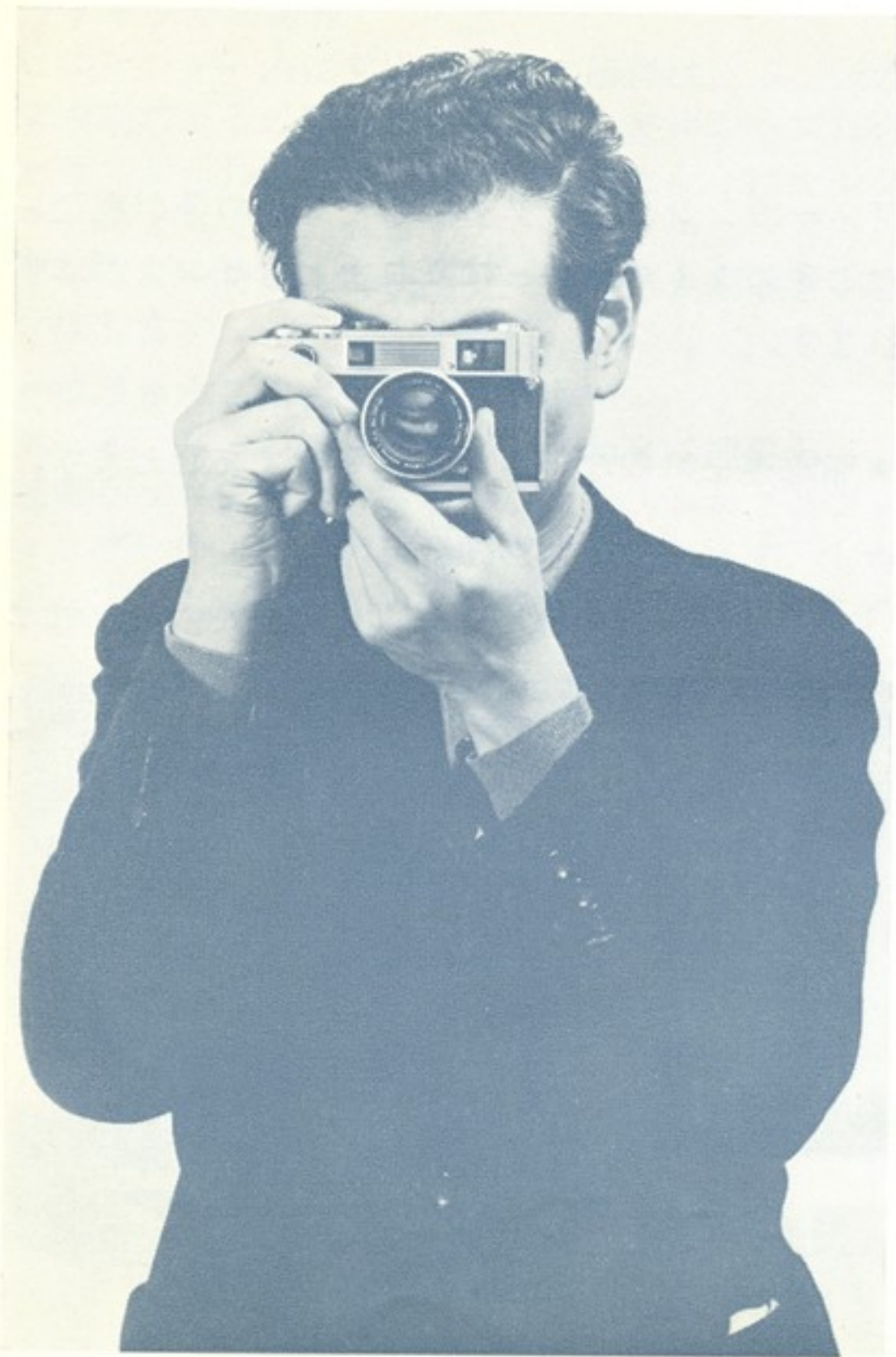
カメラの構え方

撮影の際カメラを確実に構えることは鮮鋭なピントの写真をとるために最も大切なことです。カメラは縦位置または横位置の状況に従って写真のように持ち、ファインダーを覗いてピント合わせをし、同時に構図をきめて、それから静かにシャッターを切ります。その際特に次のことが大切です。

1. 両手はつとめて深くカメラを握り込むこと。
2. カメラを頬あるいは額に当てて固定すること
3. 横位置のときは両ひじ、縦位置のときは少くとも一方のひじをピッタリ体に付けること。

- シャッターボタンを乱暴に押すことはカメラブレの原因になります。
- 撮影には三脚とレリーズを使う方が確実です。特に1/30秒以下のスローシャッターを切るときはこの点にご注意ください。





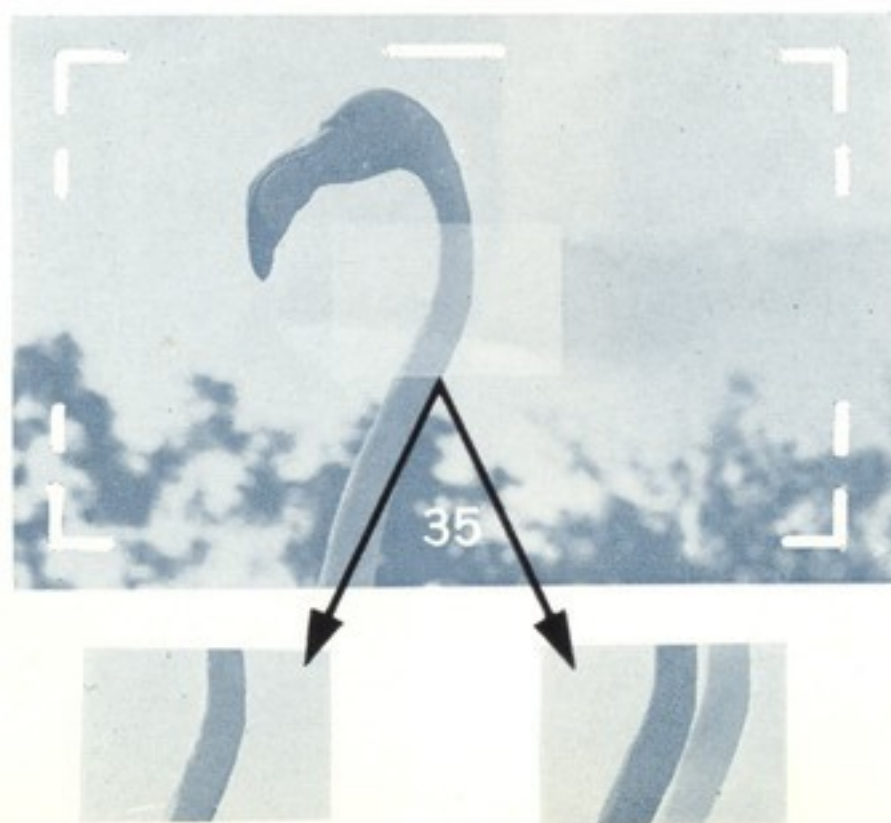
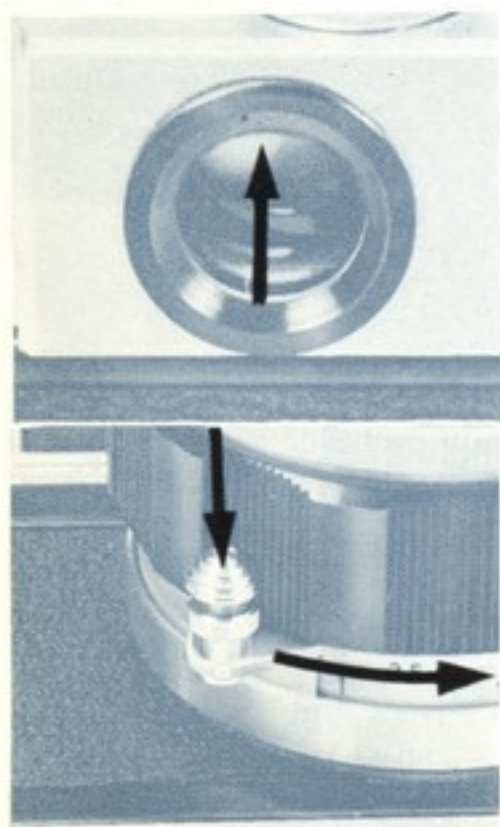
ピントの調節

被写体にピントを合わせるには、ファインダー接眼窓を覗いて、はじめにフォーカシングノブを押し、レンズの無限遠止めをはずしながら、フォーカシングリングを回します。

ファインダー視野の中央にある四辺形内に2つの像が見えます。

フォーカシングリングを回して2つの像が重なったときピントが合い、はなれたときピントがはずれます。

●無限遠止めのないレンズはそのまま回します。



ピントが合っている

ピントがはずれている

●50mm F1.2 の無限遠止めのはずし方。



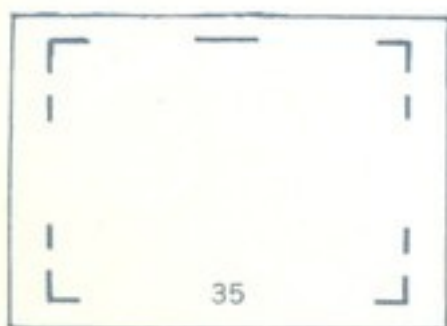
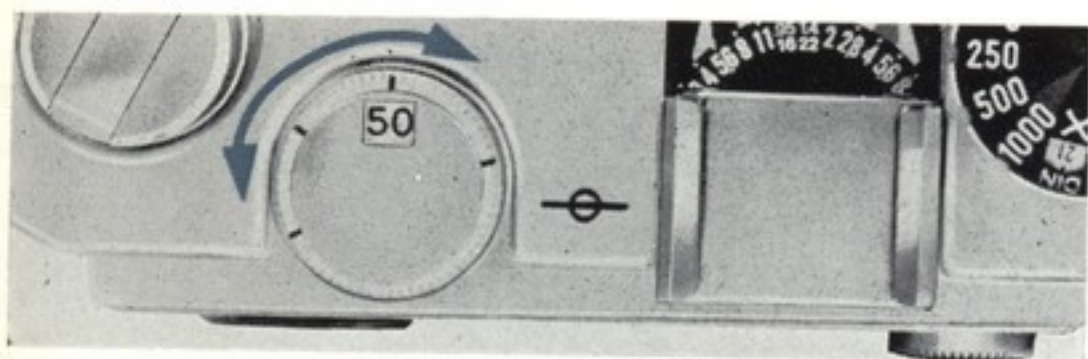
ファインダー画界

ファインダー内に見える数字と線枠は、レンズの焦点距離とその写る範囲を示し、使用レンズに合わせておかねばなりません。そのセットはセクターによって行われます。

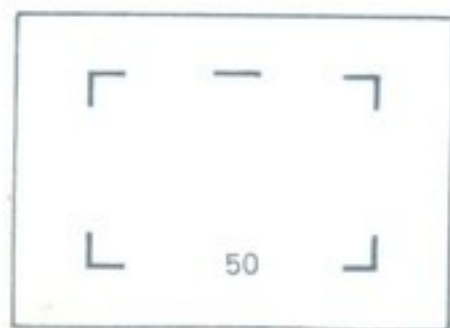
セクターを回して使用レンズの焦点距離を小窓に出します。

パララックスの自動矯正と構図

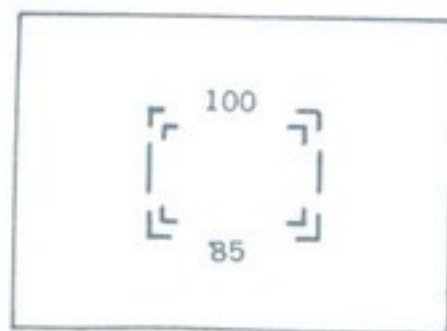
ファインダーの線枠はピント合わせに連動して、撮影レンズに対するパララックス（レンズとファインダーのズレ）が自動的に矯正されます。したがって、ファインダー通りに構図がきめられます。



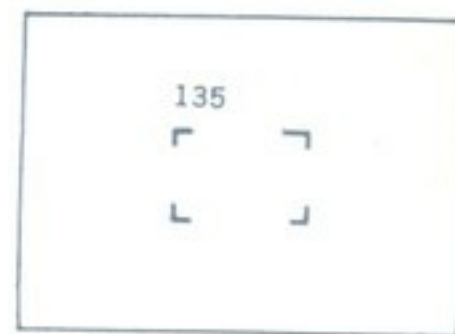
35mm用



50mm用



内側が100mm用
外側が85mm用



135mm用

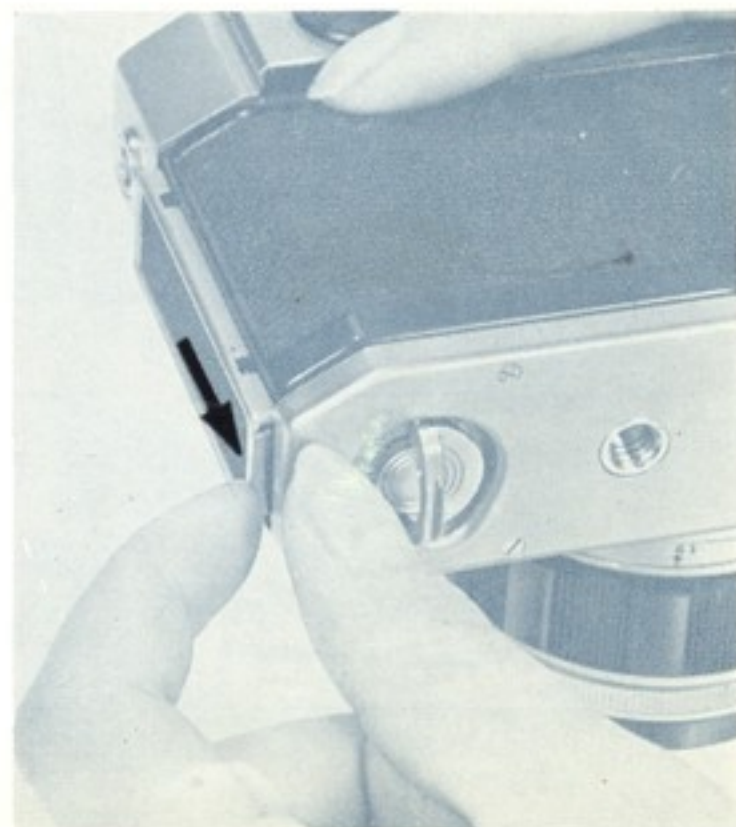
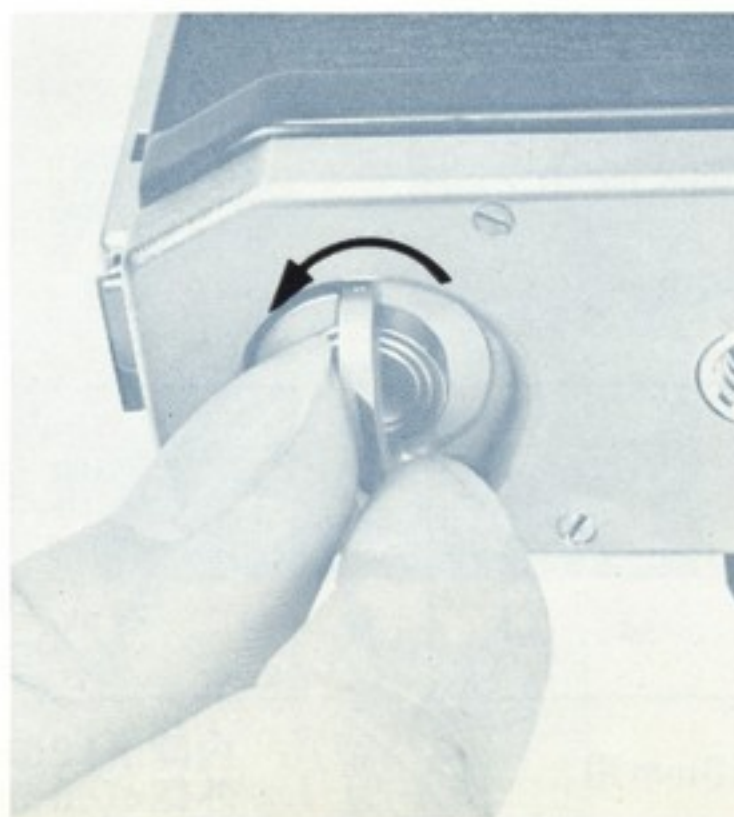
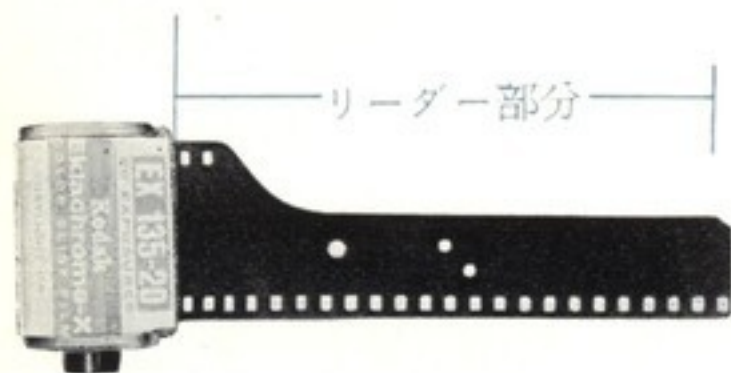
- 19mm, 25mm および 28mm レンズの場合は、別に専用ファインダーが必要です。
- 線枠の示す画界はカラースライドの画面寸法に合わせてあります。
- レンジ・ビューファインダー接眼窓には標準視度の接眼レンズが取付けてありますが、これで見にくい方のために交換接眼レンズが用意されています。

フィルムのつめ方

フィルムは市販の 35mm 日中装填用パトローネ（カートリッジ）入りフィルムでも、キヤノン専用マガジンVに入れたものでも同様に用いられます。

取扱い：装填の際は直射日光を避けてください。やむを得ないときは太陽に背を向けて、す早くお取扱いください。

1. 裏蓋を開きます。
 - 1-1. 底部のマガジン開閉つまみを引き起して左回りに半回転します。
 - 1-2. 裏蓋止め金を引き、裏蓋を開いてください。



フィルム取付けフォーク

巻戻しノブ

フィルムさしこみ溝

巻取りスプール

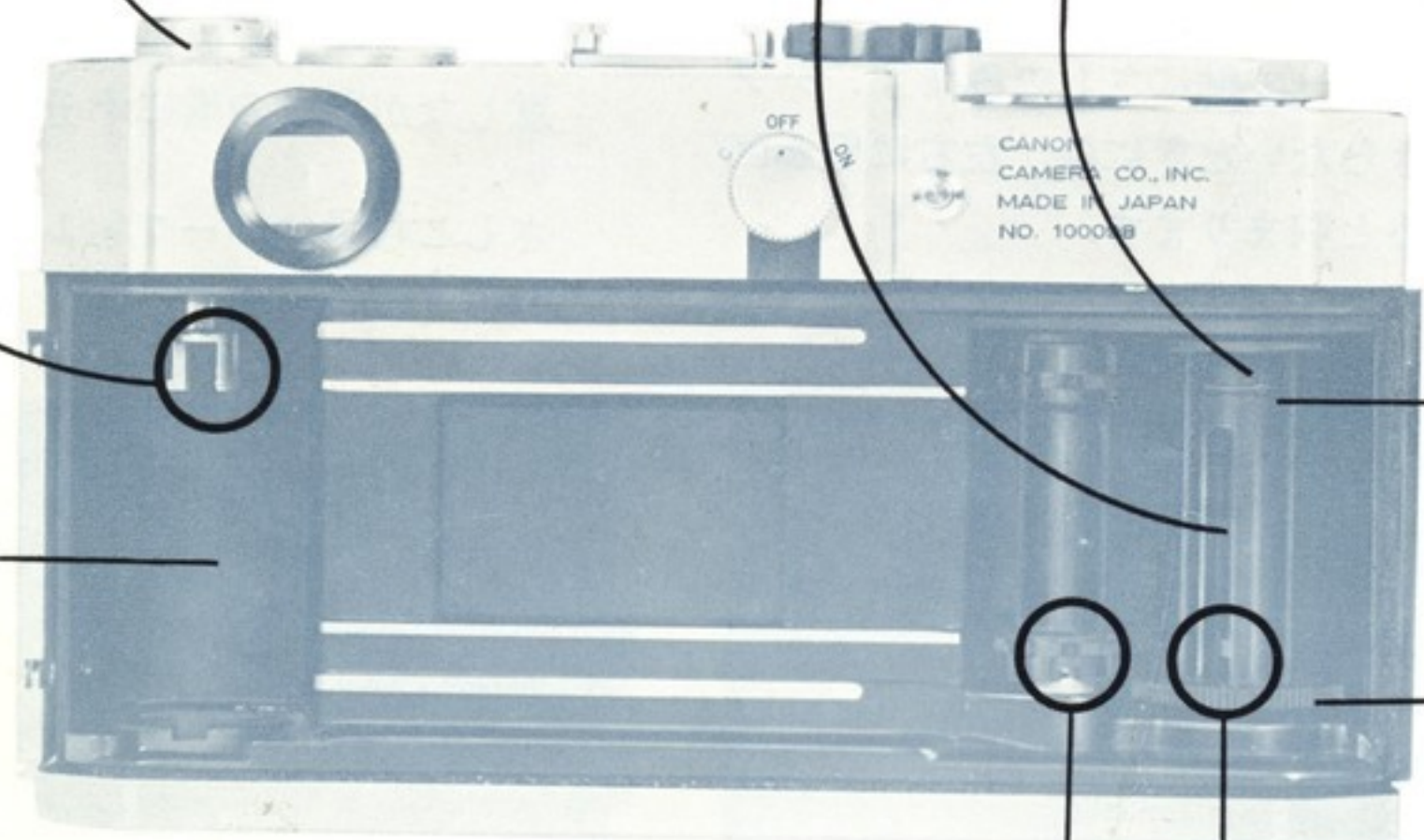
矢印

パトローネ室

ローレット

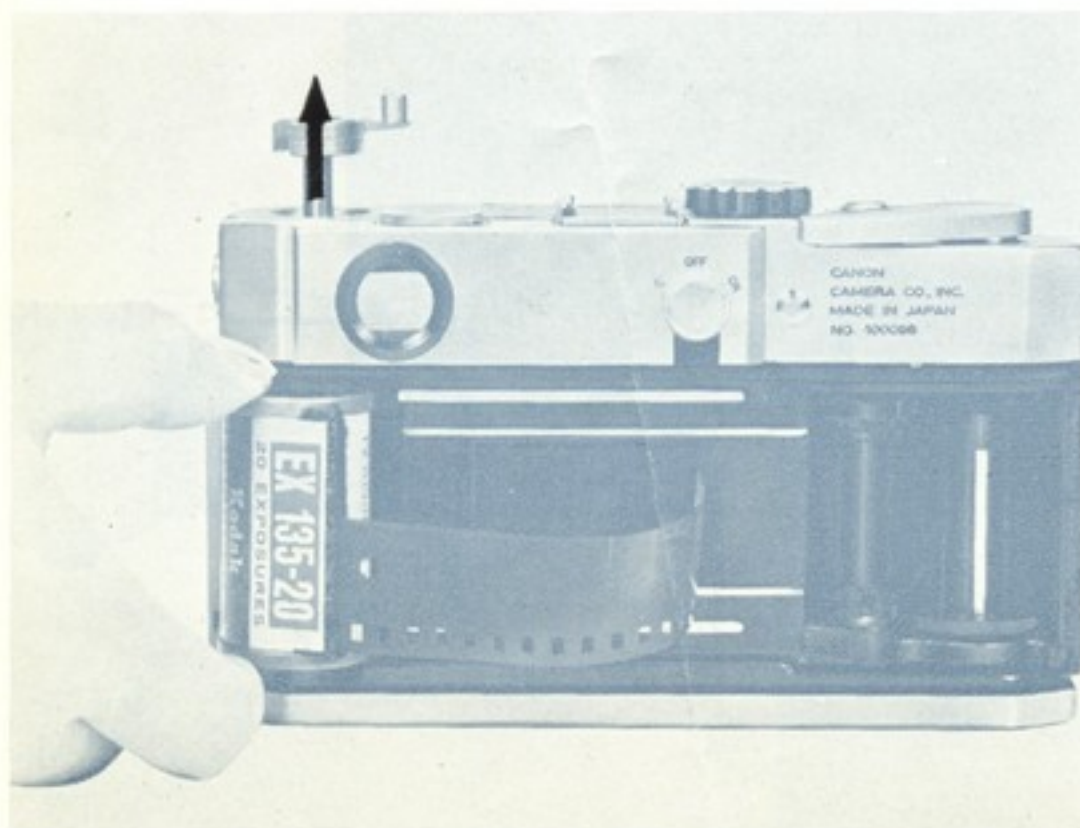
突起

スプロケット (歯車)



2. パトローネを入れます。

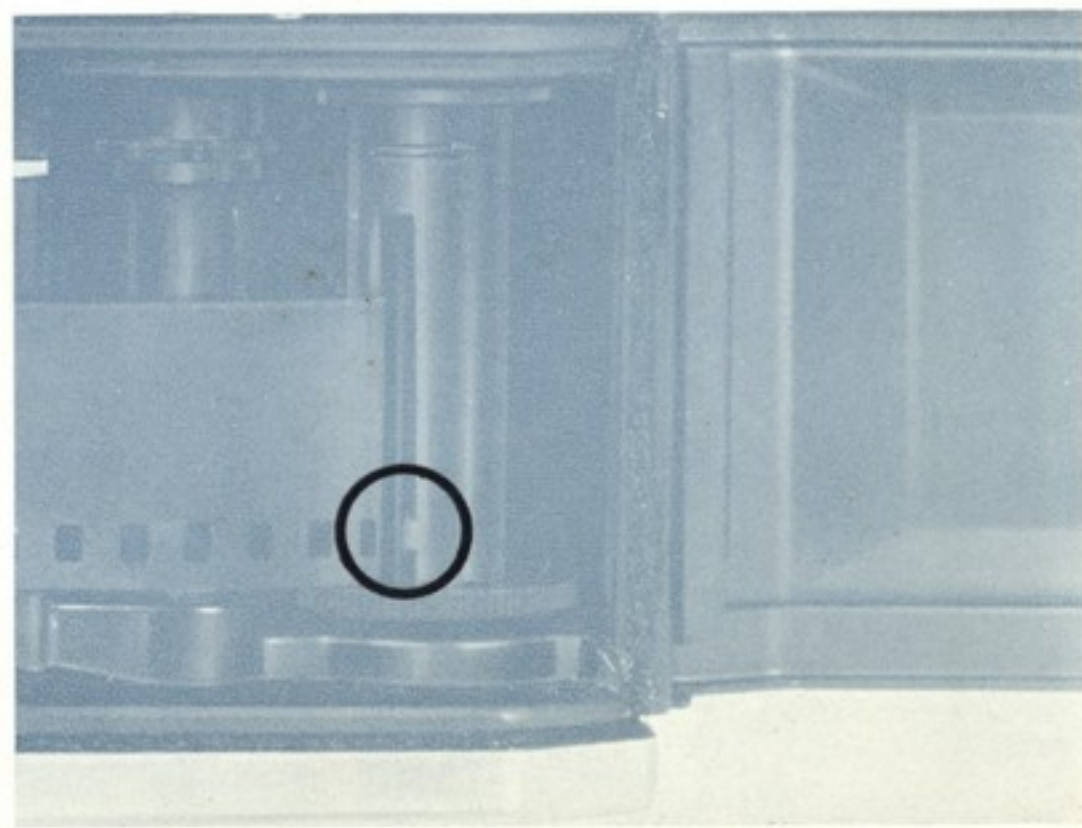
巻戻しノブを十分に引上げ、パトローネを取めたら、再びノブを元の位置に押し戻し、フックをパトローネ軸にさしこみます。ノブが十分戻りきらないときには、左右に僅か回すようにすると収まります。



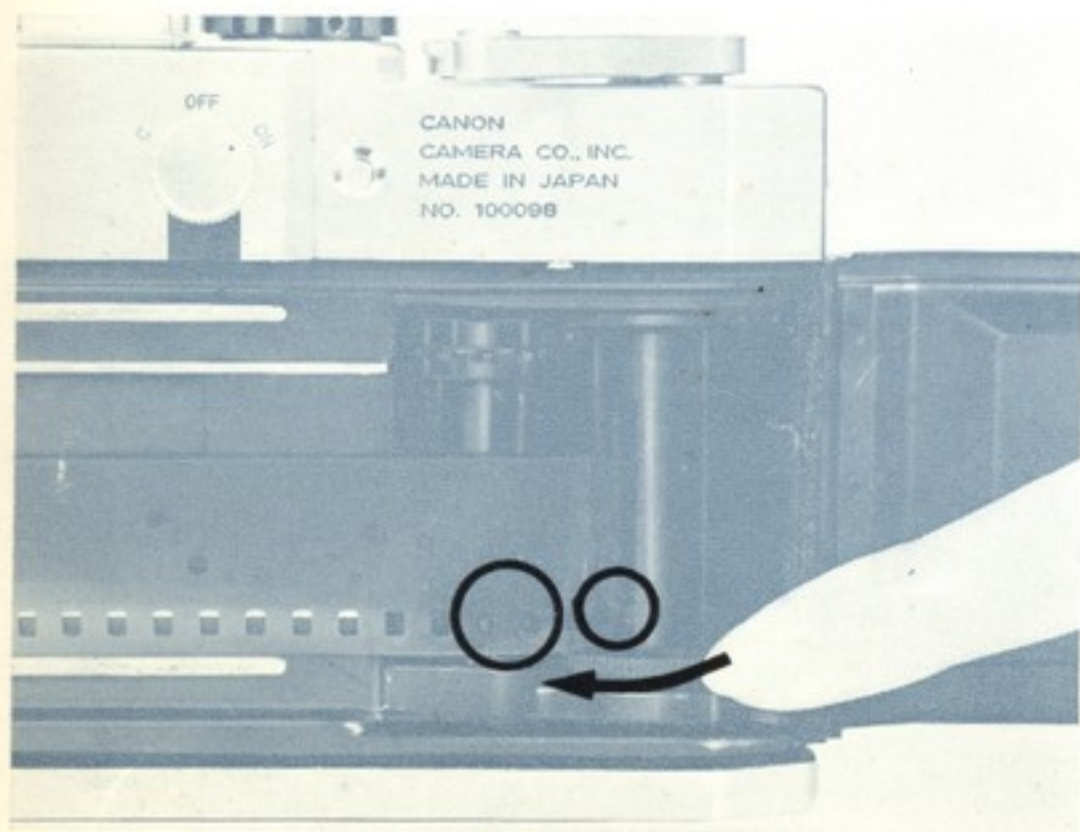
3. フィルムをさしこみます。

溝が反対側にかくれているときには、ローレットを矢印方向に回して手前に出します。フィルム先端を僅かに引出し、曲らぬよう注意しながらこの溝に十分さしこんでください。

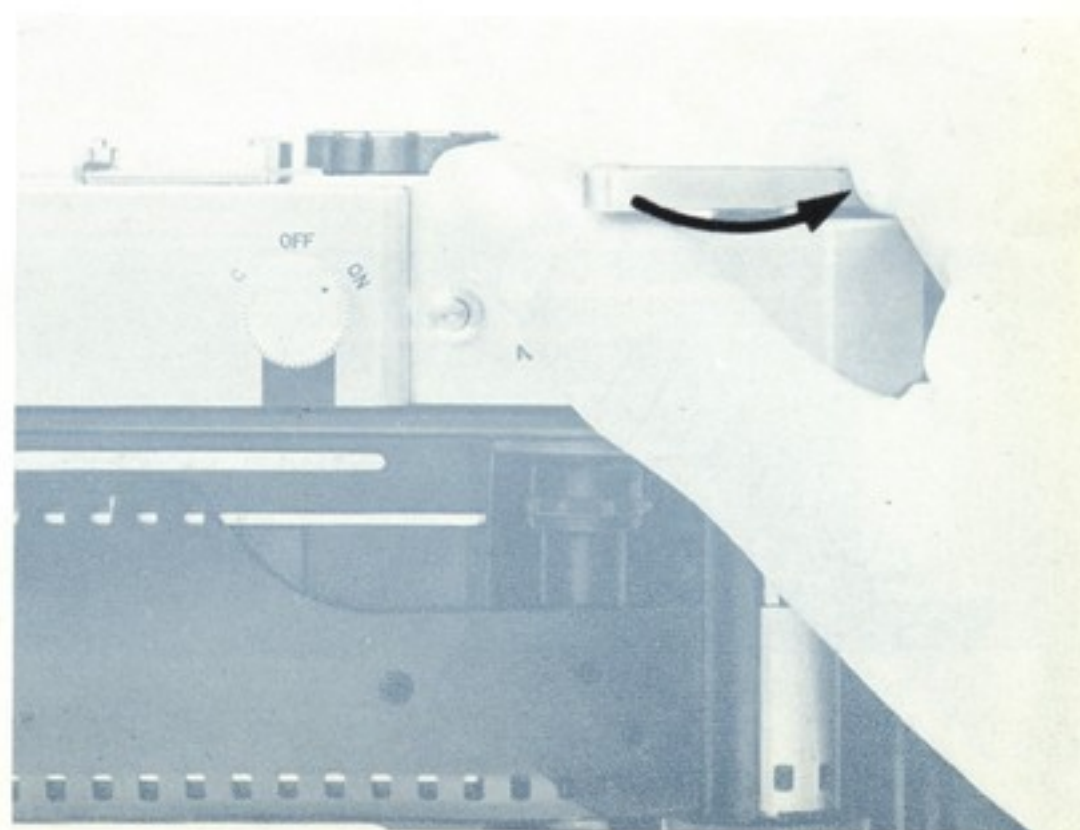
さしこむ量はパーフォレーション2穴分が適当です。



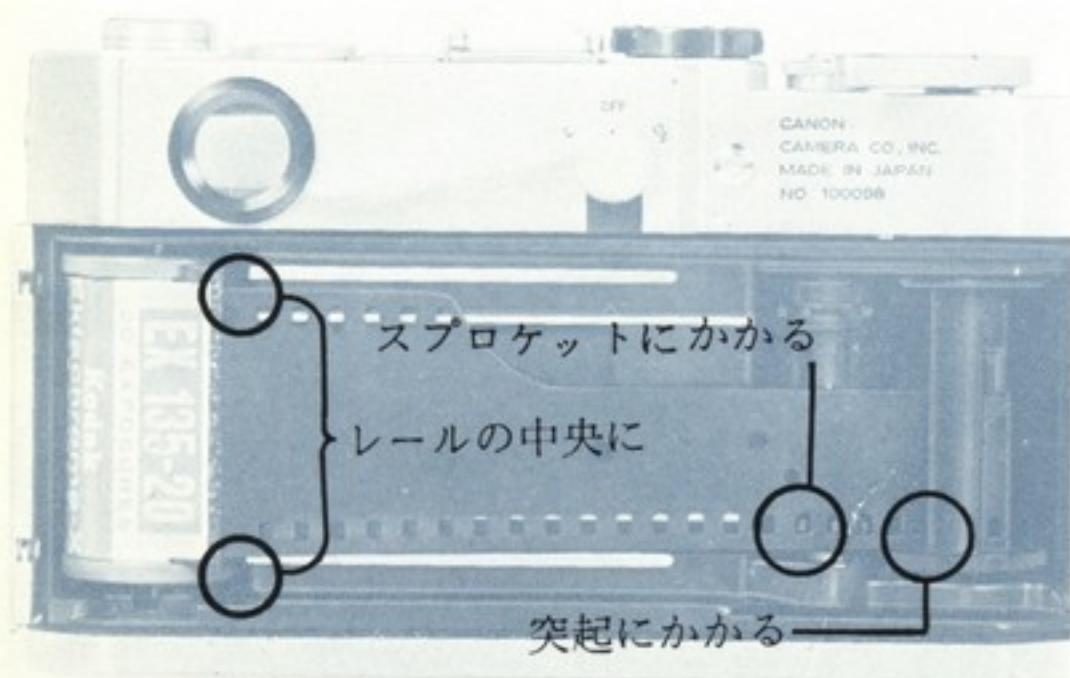
4. 続いてローレットを矢印方向に回しながら、溝ぎわの突起をフィルムの孔にかけ、更にスプロケットからもはずれないよう確かめたのち、



5. 巻上げレバーを回して、フィルムを約1回スプールに巻取ります。



6. フィルムにたるみがあれば、巻戻しクランクを起して右回しに静かに回してたるみを取り、

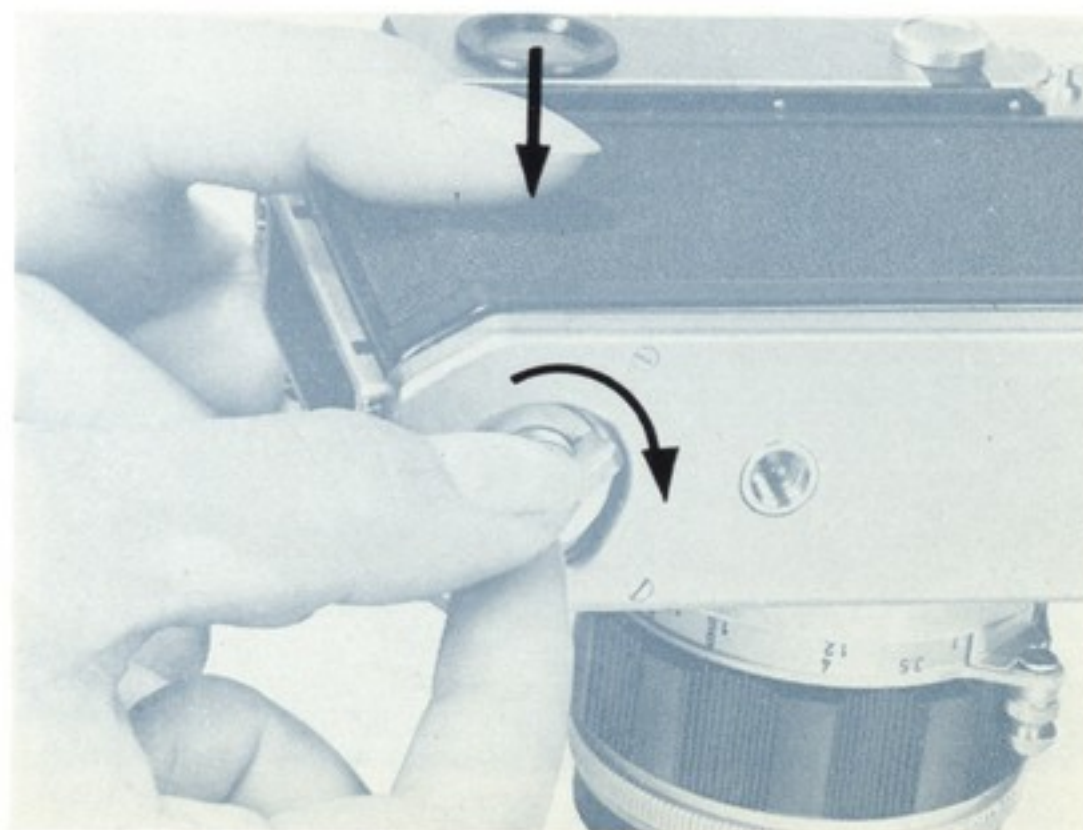


7. 裏蓋を閉じます

開閉つまみを回してください。

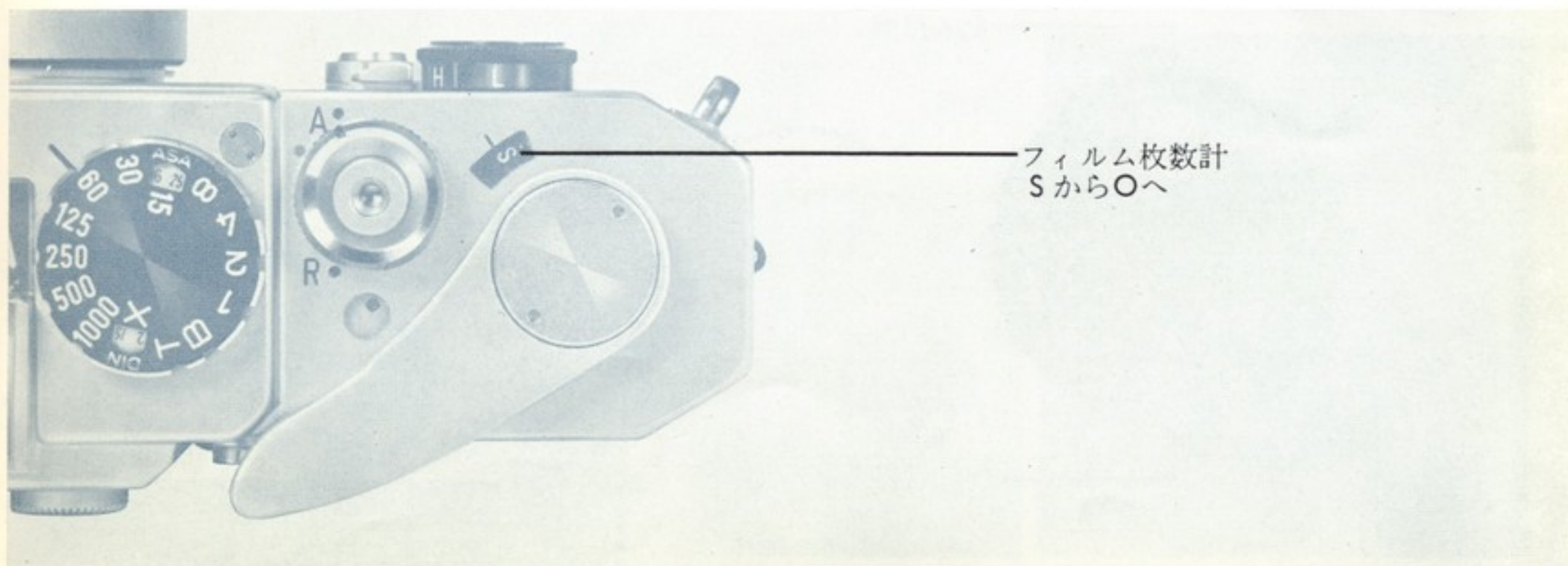
巻戻しクランクを折畳んでください。

- ※ マガジン使用の際には、裏蓋をとじる前に開閉つまみを回してはなりません。
- ※ 開閉つまみを先に回すと、裏蓋が閉じられません。



8. 2回空写し

レンズキャップをかぶせたまま、巻上げてシャッターを切る操作を2回繰り返してください。フィルムカウンターのマークがSから0になります。次に巻上げると1枚目の撮影準備ができます。



フィルム枚数計
Sから0へ

フィルムの感度表示

フィルムの装填をしたときには、忘れずにそのフィルム感度を、シャッターダイアルの小窓に表示しておきます。セットのしかたは12頁のフィルム感度の合わせ方をごらんください。



●正しいフィルム装填の確かめ

巻上げをするたびに、巻戻しノブが反時計方向に回ればフィルムが正しく装填されている証拠です。もし回らなければフィルムがスプールから抜け出しているか、パーフォレーションがスプロケットからはずれている場合です。

失敗を防ぐためにもフィルムをつめたときは、いつもこれを見るようにお勧めします。またフィルムが送られていないときは巻戻しの要領で(28頁)一旦フィルムを取出してから装填し直してください。



フィルムの巻戻し

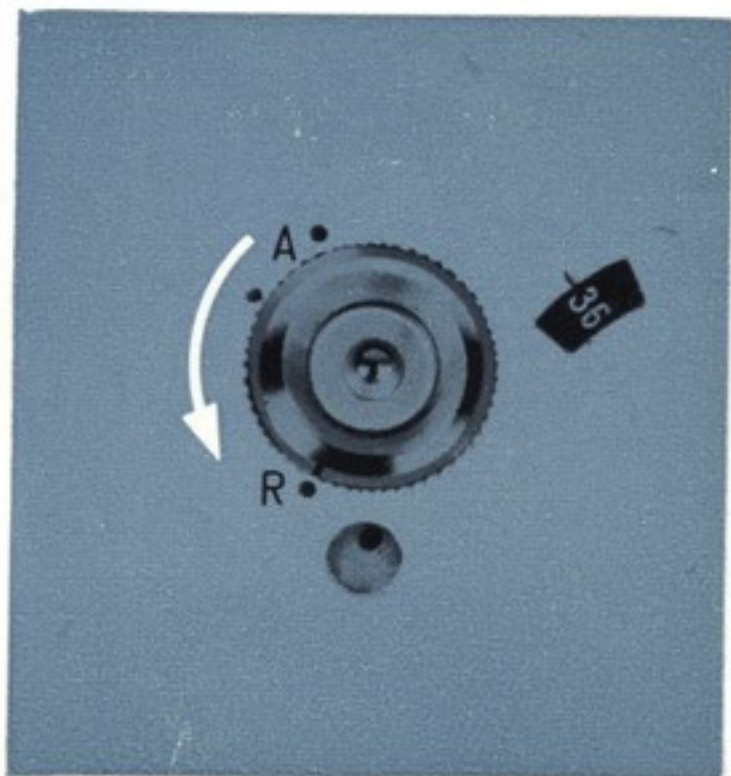
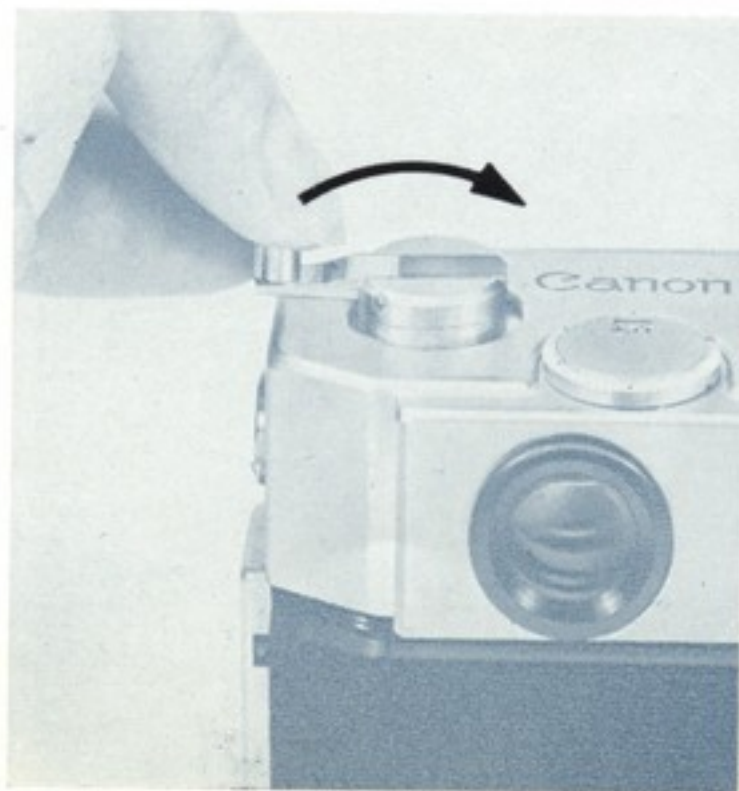
フィルムが終りになると巻上げができなくなりますから、次の順序に従ってフィルムを直ちに元のパトローネに巻戻します。

* 撮影されたフィルムはカメラの中で裸のまま巻取られていますから、巻戻さずに裏蓋を開くと全部無駄になります。ご注意ください。

1. 巻戻しリングをAからRの位置へ回します。
2. 巻戻しクランクを起して矢印の方向に回します。

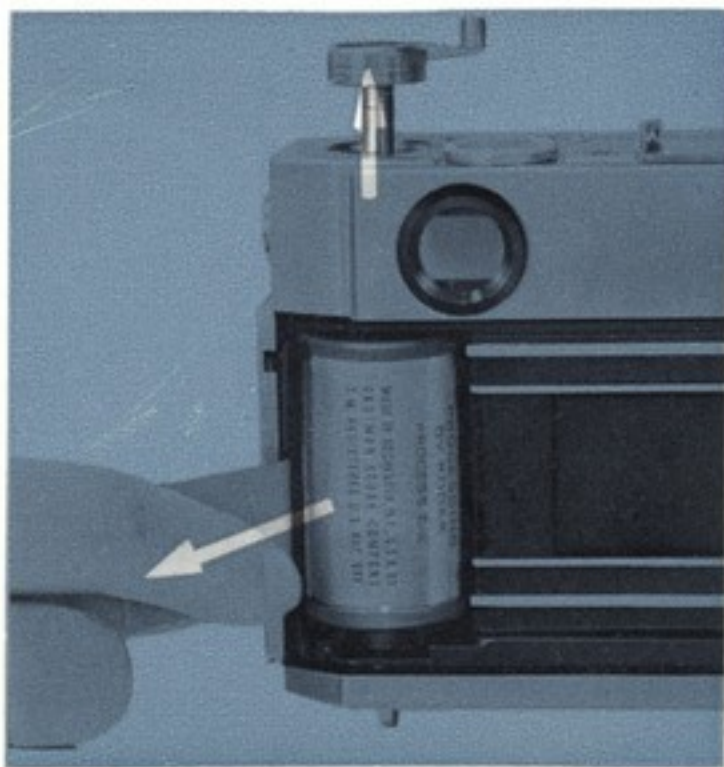
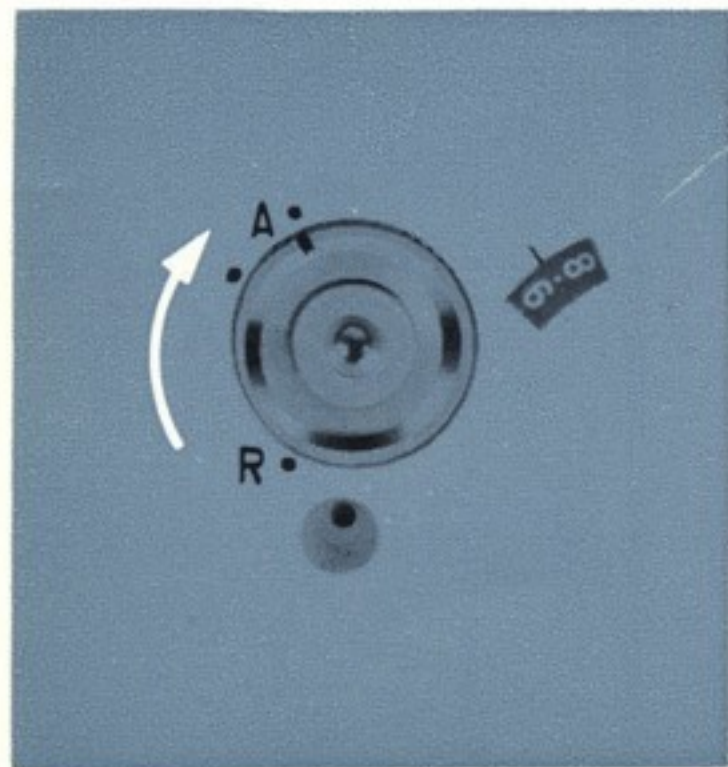
巻戻しクランクを回している間、フィルム巻戻し指標の動きに注意し、その円形運動が止ったならばすぐ巻戻し操作を中止します。

* 巻戻しの際はレンズキャップをしてください。



3. 巻戻しリングを A に戻します。
4. 裏蓋開閉つまみを左回しに回した後、裏蓋止め金を引いて裏蓋を開きます。
5. 巻戻しクランクを十分に引きあげた後、パトローネまたはマガジンをカメラから取り出します。

* フィルムが終りになっているのに無理に巻上げると、フィルムが切れたりして、巻戻しができなくなりますからご注意ください。この際には暗室へ入ってから裏蓋を開くようにします。



カメラやレンズの紛失、盗難に際しては警察関係の届け出のほか、最寄りのカメラ材料店にご相談ください。店ではわずかの費用で全国の業者に連絡し、品物の発見にご協力申し上げることができます。カメラやレンズの番号はいつでもわかるようなお心づかいをお勧めいたします。

セルフタイマー

シャッターを巻上げ

セルフタイマーレバーを矢印方向に回し、シャッターボタンを押す。

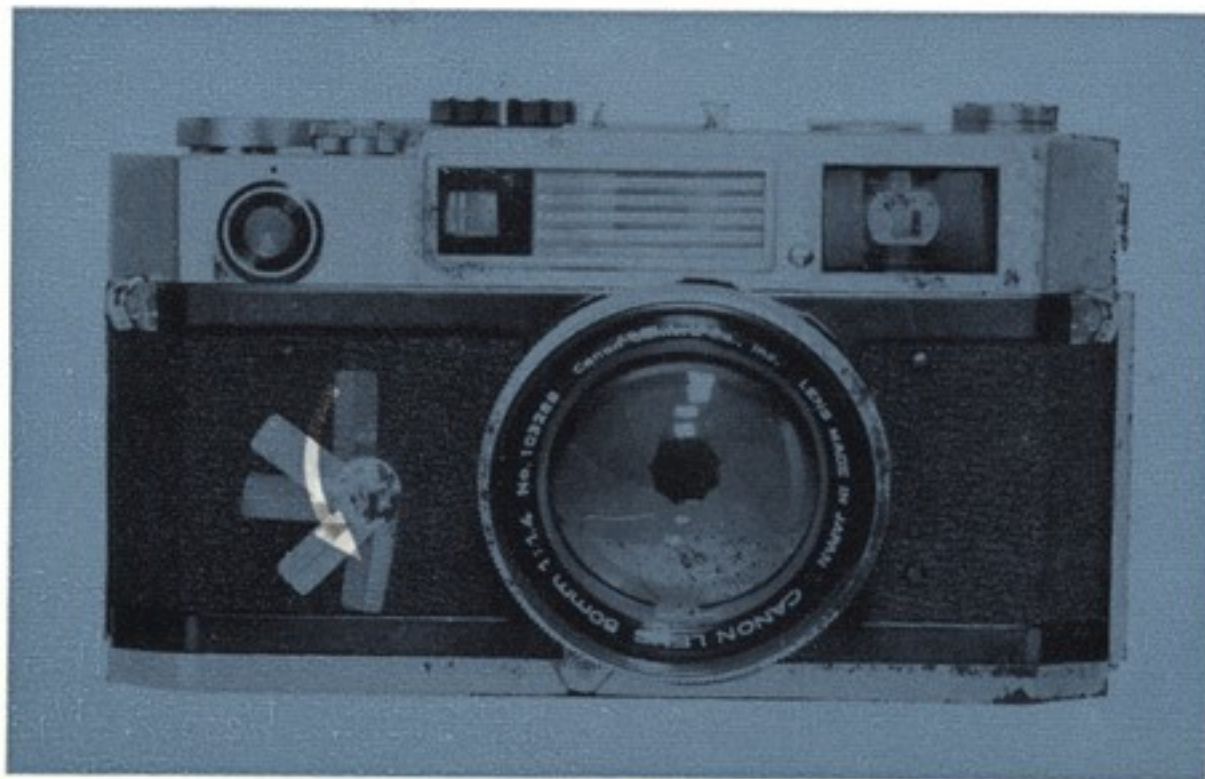
約10秒後にシャッターが作動します。

* セルフタイマーレバーは 2/3 以上巻上げること

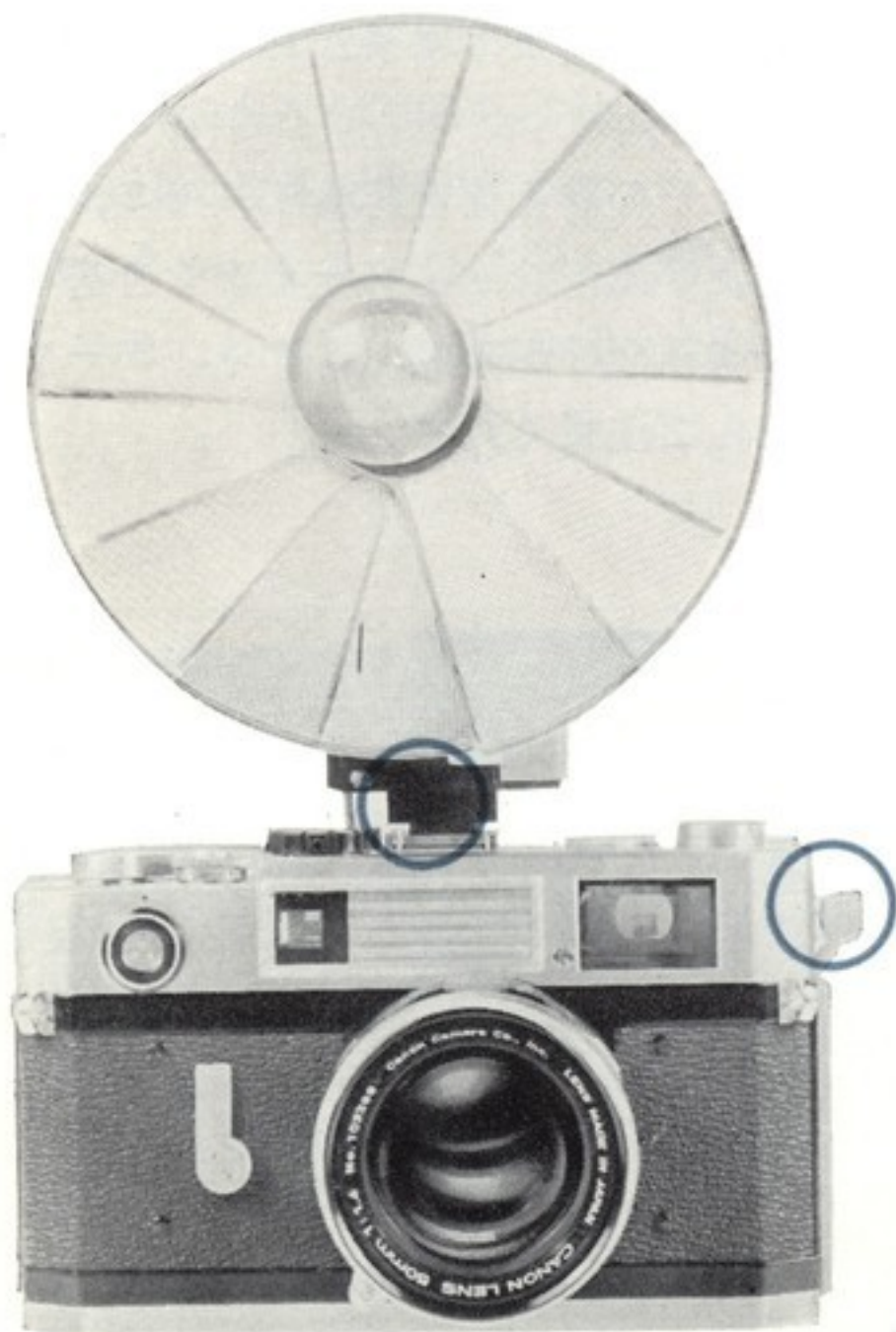
* 巻上げ位置によって時限調節ができます。

* シャッターの巻上げは後からでもさしつかえありません。

* シャッターの巻上げを忘れて、セルフタイマーのみ巻上げて、シャッターボタンを押すとセルフタイマーだけが作動し、シャッターが切れませんからご注意ください。



フラッシュ同調



カメラのフラッシュターミナルにフラッシュユニットおよびスピードライトのコードを接続して、下表の各シャッタースピードで同調撮影ができます。

フラッシュユニット	同 調 範 囲														
	1000	500	250	125	60	30	15	8	4	2	1	B	T	X	
FP 級	○	○	○	○	○	●	○	○	○	○	○	○	○	○	●
M 級	●	●	△	△	△	●	○	○	○	○	○	○	○	○	●
F 級	●	●	●	●	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	●
スピードライト	●	●	●	●	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

閃光のタイムラグはシャッターダイヤルのセットの際自動的に調節されます。

- * ●印の部分は使用できません。
- * 撮影にはレンズフードをご使用ください。
- * X 接点のシャッタースピードは1/60秒です。
- * フラッシュターミナルは JIS B
- * AG-1, US-1 や PF-1, MX-0 のような極小型のM級バルブは、1/15秒以下のシャッタースピードをご使用ください。

M級バルブは、元来レンズシャッター用につくられたものです、従って画面の中央部だけ写れば良いというような場合には、1/250秒、1/125秒(△印)のシャッター速度を使用することも可能です。

レンズの特別な取扱い



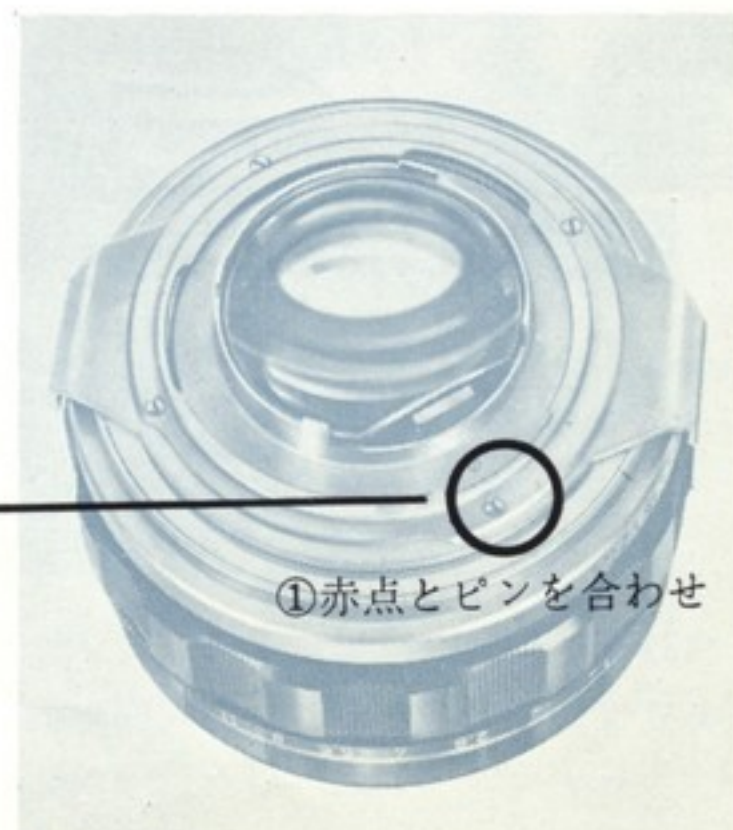
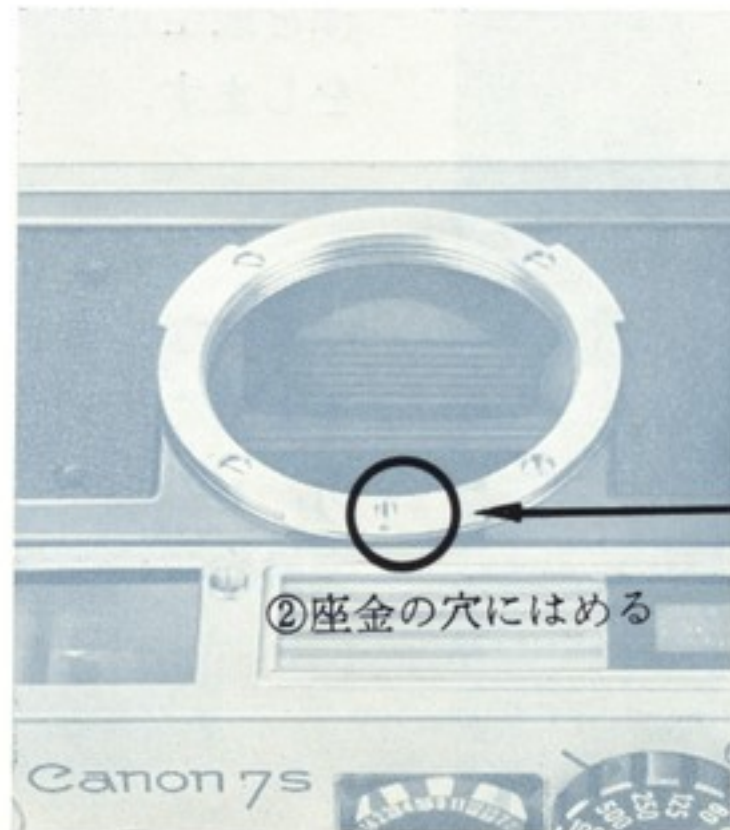
レンズの交換

ねじマウントのレンズ（50mm F0.95 以外のレンズ）をカメラからはずすには、レンズのなるべくもとの部分をつかんで左回し（小矢印方向）に回します。レンズを取付けるには、レンズの底蓋を取去った後、レンズが傾かないように、ていねいにねじを合わせながら、右回し（大矢印方向）に静かに回して座金にねじこみます。レンズ交換の際 85mm 以上の望遠レンズでは、レンズの距離指標を最至近距離に回しておいて、その付けはずしをします。

レンズの交換をするときはカメラを強い光線に向けてはなりません。別のレンズをすぐ取付けられるように用意しておいて、なるべく光線の弱い場所、もしなければ自分の身体の陰などで、手早く交換取付けを行います。

パヨネットマウントのレンズ (50mm F 0.95) をカメラからはずすには、締付けリングを左回し (小矢印方向) に回してパヨネットをはずし、レンズを取出します。取付けには締付けリングの赤点を鏡胴後部のピンに合わせ、そのピンをレンズ座金の受け穴にはめながら押し付け、締付けリングを右回し (大矢印方向) に回して固定します。

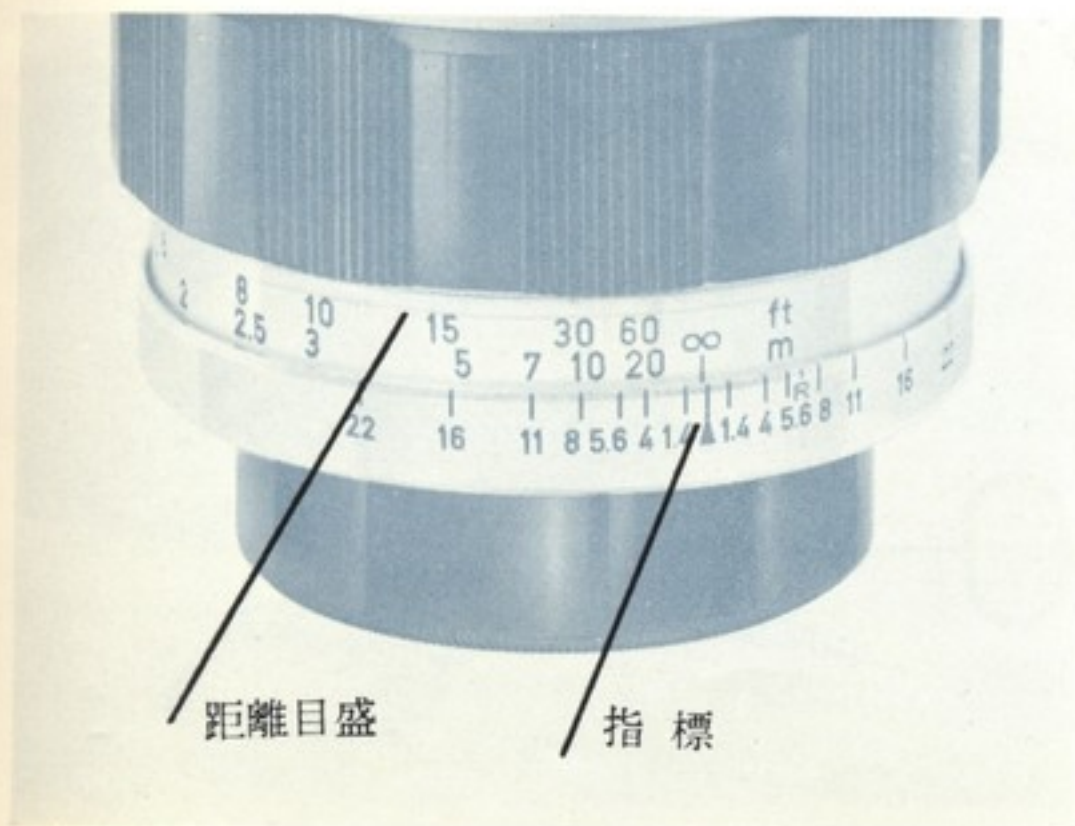
※レンズの泡は明るさを何百分の一か何千分の一か減らすことにはなりますが、この程度では撮影上全然問題になりませんし、また像の鮮鋭度にも何ら影響がありません。高級レンズに使われる特殊ガラスは、気泡の残存を免かれませんが高級レンズの製造上やむを得ないものとしてご了承願います。



距離目盛

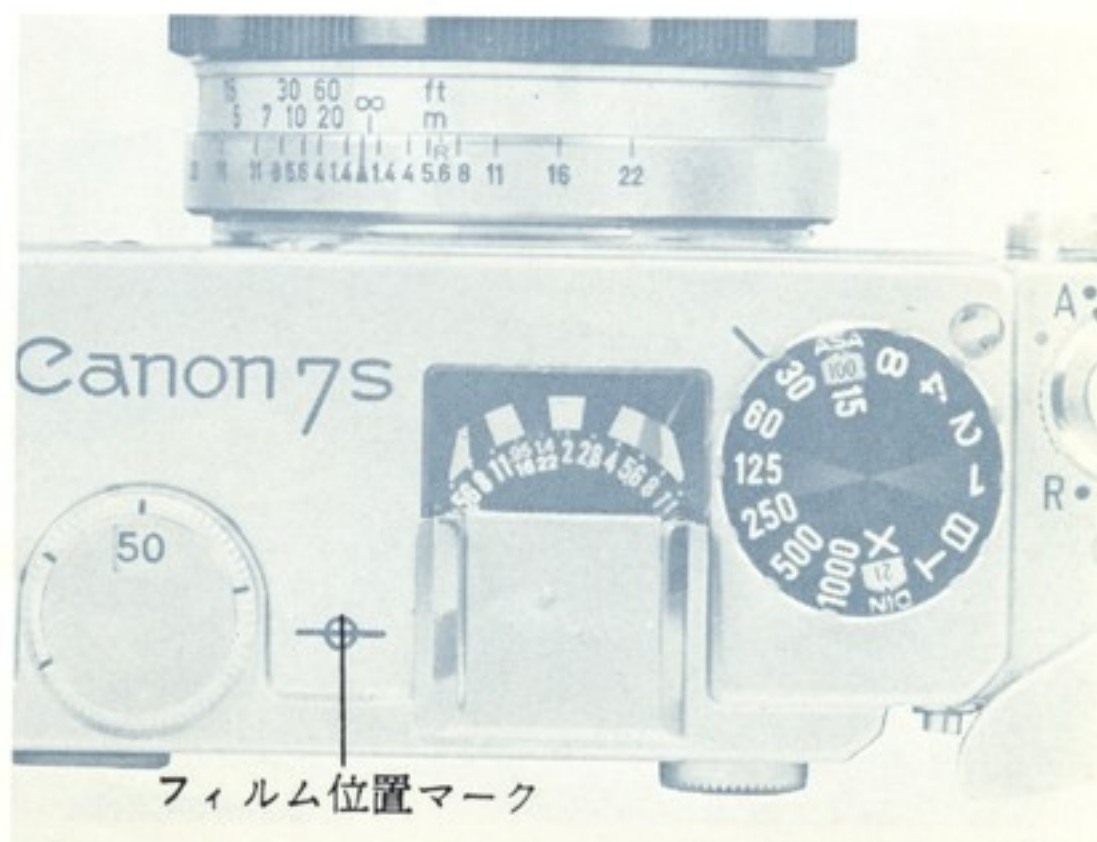
はピントを合わせた被写体とフィルム面との距離を示すものです。普通の撮影では必ずしも必要ありませんが、被写界深度を知る場合や赤外撮影あるいはフラッシュ撮影などに必要を生じます。

距離目盛は一桁数字の距離ではその文字の中心、2桁数字では2つの文字の間、3桁数字では中央文字の中心がそれぞれ正しい目盛位置になっています。



レンズの距離目盛は、フィルム位置から測定した距離が目盛ってあります。

従って、実測してピントを合わせる場合には、フィルム位置マークから測り、その距離をレンズの目盛にうつします。



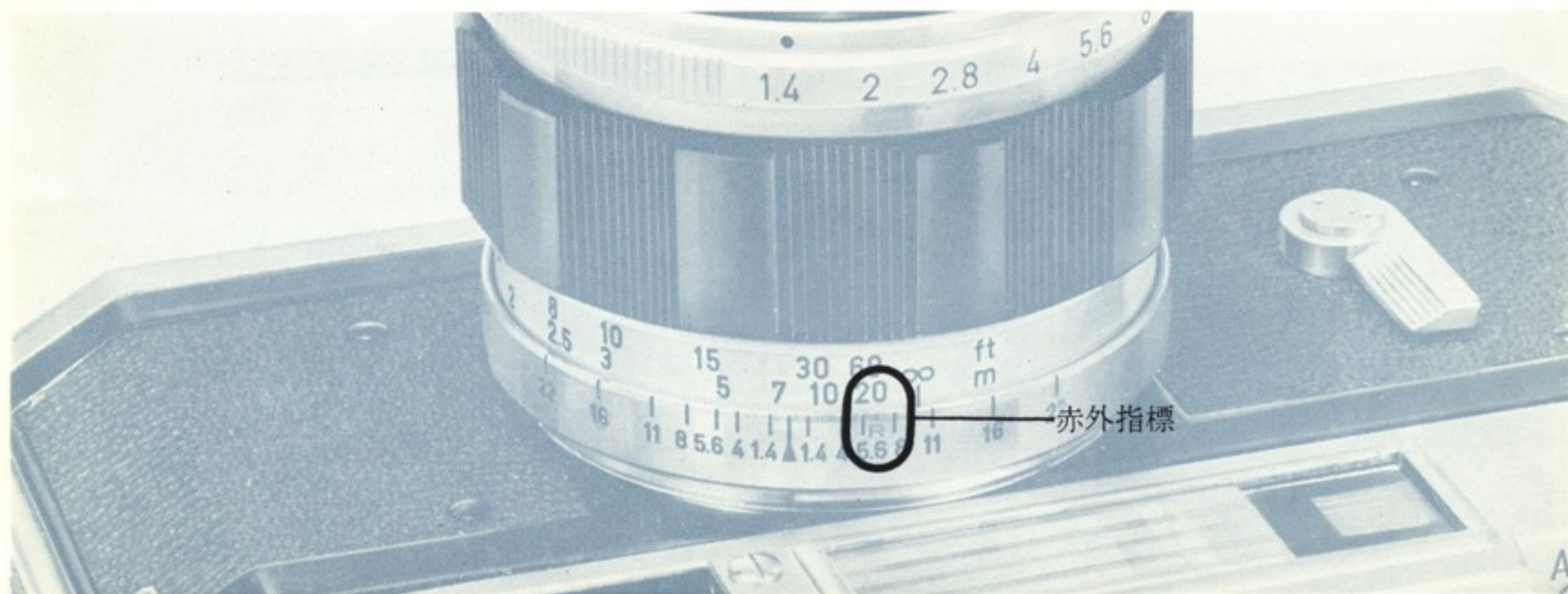
赤外指標（赤外マーク） R

赤外撮影のときは、ピント位置が普通撮影より多少ずれますから修正しなければなりません。

まず普通にピントを合わせ、その距離目盛を赤外指標 R に合わせ直します。

たとえばピントを合わせて距離目盛が20だったとすれば、この20の目盛を R の位置までずらせればよいわけです。

- 赤外指標は 8000\AA 程度の波長に最大感度をもつフィルムと赤外フィルター（たとえば コダック IR 135 フィルムとラッテン87フィルター、または JIS の IR77～78 フィルター）を用いる場合を標準にして目盛ってあります。赤末部を使用する場合、たとえばプラス X あるいは一般のパンクロフィルムにラッテン25または SR 59～60 程度の赤色フィルターを添用する際などには、修正移動量を $1/3$ くらいとするのが適当です。



被写界深度目盛

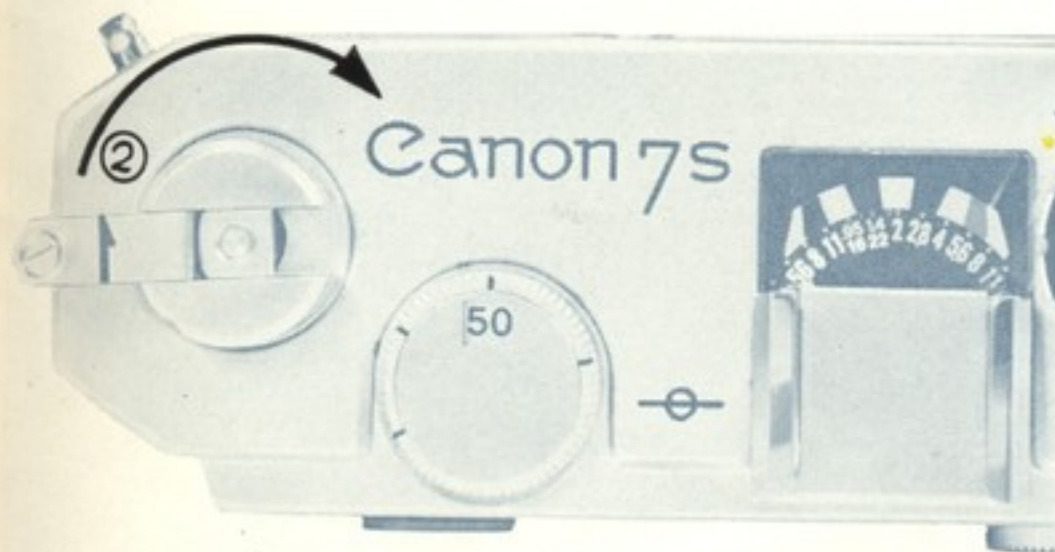
一つの被写体にピントを合わせると、その被写体の前後で鮮明に写る範囲があり、これを被写界深度といいます。その範囲は絞りの大きさによって変わりますから、距離目盛に関連させて、絞り数値が目盛られています。



二重露出

キャノンは二重露出防止になっていますが、必要の場合は次のようにすると二重露出ができます。

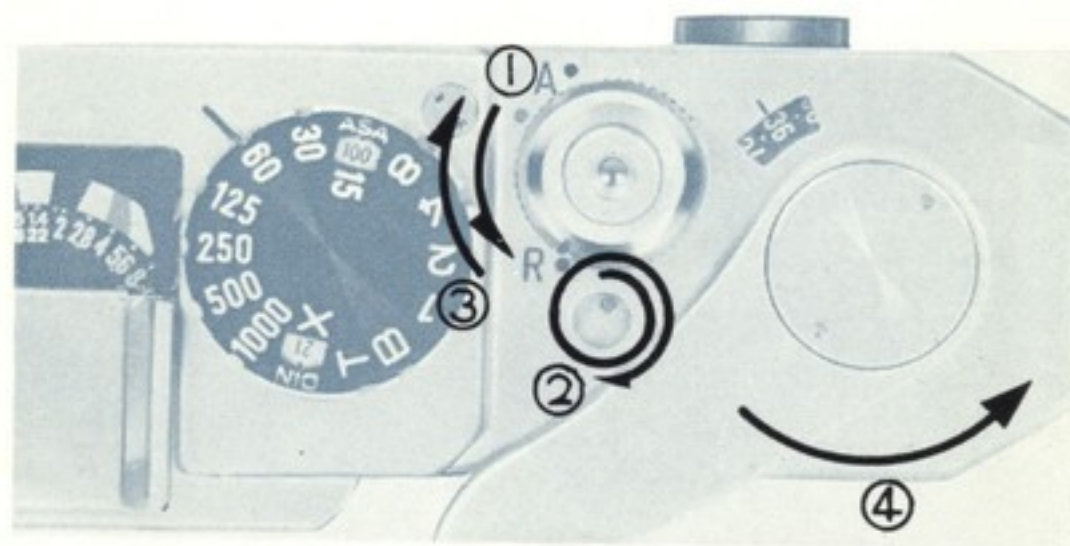
- ① まず巻戻しリングを巻戻しの場合と同様に R の位置に回します。
- ② フィルム巻戻し指標の動きに注意しながら、巻戻しクランクを右回しに回して巻戻し、指標が約 1 回半、回転したところで巻戻しを止めます。
- ③ 巻戻しリングを A の位置に戻します。
- ④ 次にレバーを普通に動かしてシャッターの巻



上げをすれば前のフィルム面に二重に撮影することができます。レバーは念のため 1 回以上止まるまで動かしてください。この操作をくり返せば同一フィルム面上に何度でも露出することができます。また同様に巻戻し指標を 2 回半回転させれば 2 枚前のフィルム面から二重撮影ができます。

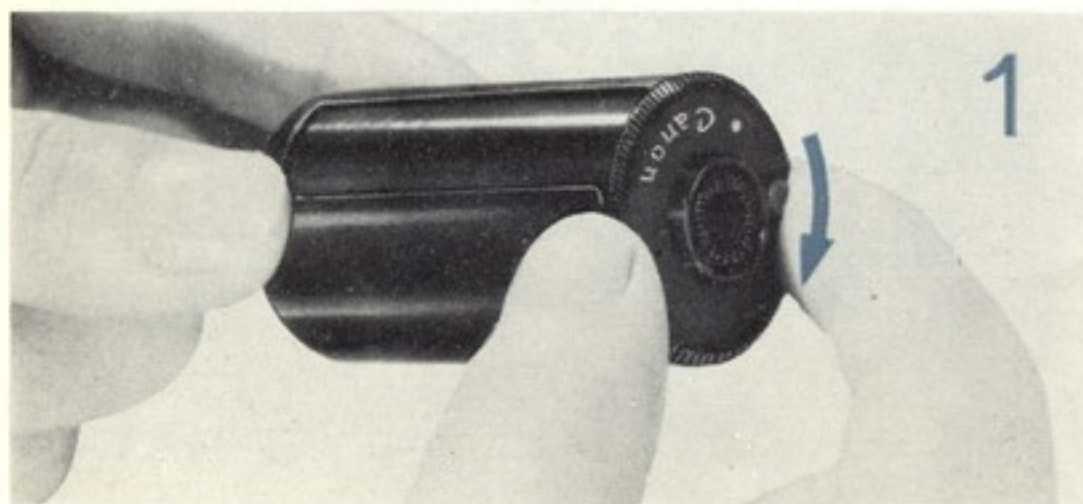
ただしフィルムカウンターは巻上げするたびに進みます。

- レンズキャップをかぶせたまま誤ってシャッターを切った場合も、この方法でシャッターの巻上げをすれば、フィルムを無駄にしないで済みます。

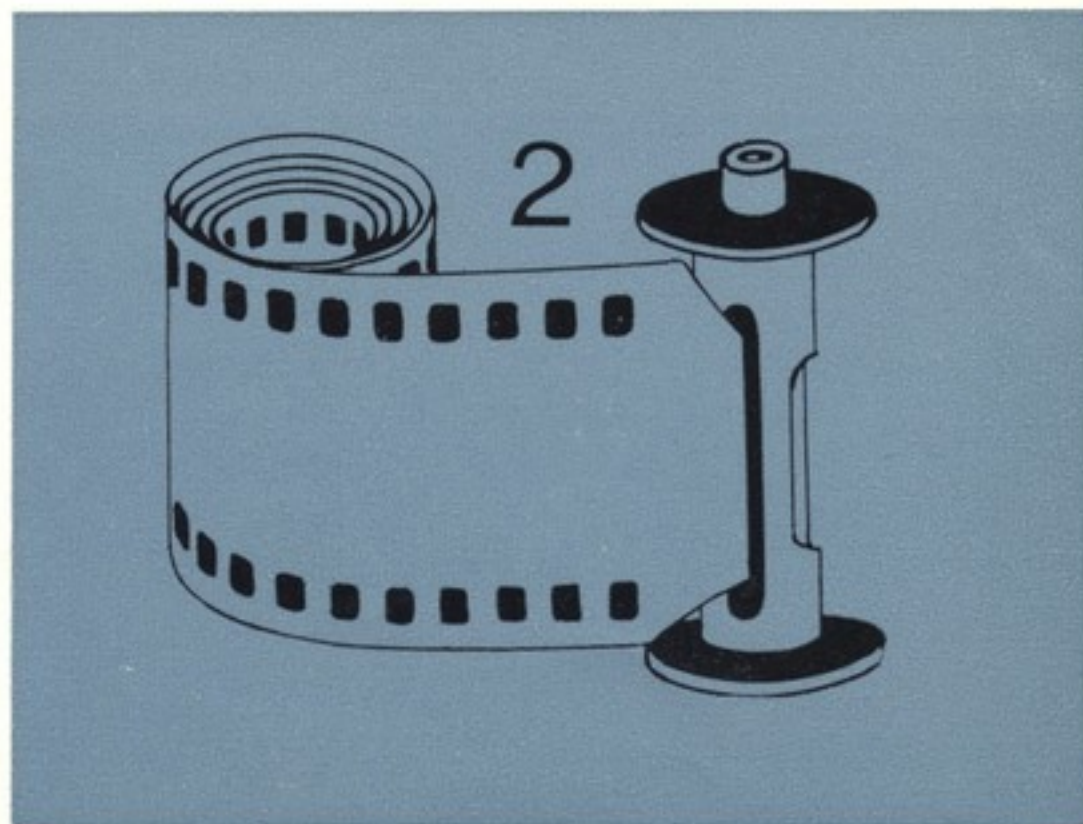


キヤノン専用マガジン とフィルムのつめ方

- ① 図のようにマガジンをもち、突起を指で矢印の方向に押しロックがはずれて内筒が少し回ります。内筒と外筒との窓口があったとき内筒を引きだします。



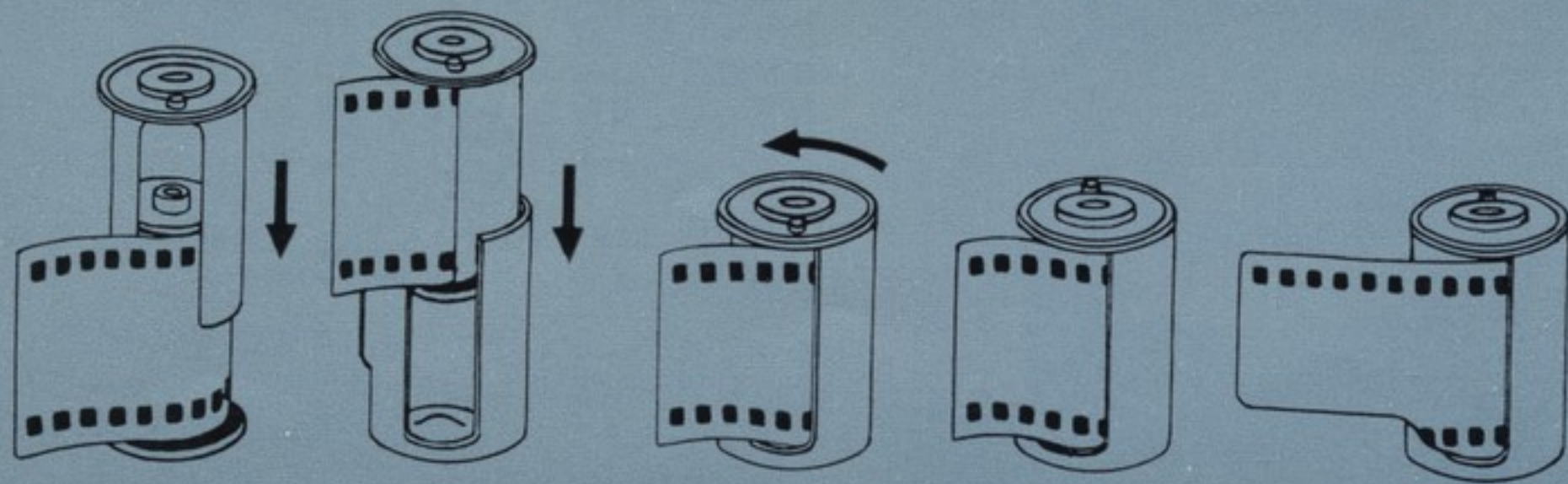
- ② フィルムの乳剤面（巻きぐせの内側）を向うむきにして、先端をスプールの軸溝に差しこみます。溝は幅の広い方が入口です。フィルムは軸内の戻り止めの作用で戻らなくなるはずですから、少し動かして確かめてください。



- ③ 乳剤面を内側にしてフィルムを巻きこみ，これを内筒に収めます。乳剤面に指先を触れてはなりません。またゆるく巻いて，後で強く巻きしめるとフィルムに傷がつきます。
- ④ 窓口を合わせて内筒を外筒にはめ込みます。
- ⑤ 矢印の方向に内筒を回します。
- ⑥ パチンと音がして安全装置がかかります。
- ⑦ 長巻きフィルムの場合はフィルムの端を図のように切取ります。

- フィルムの取扱いは安全灯下か暗黒下で行わねばなりません。
- フィルムを入れたマガジンはカメラに装填するとき以外は必ずマガジンケースに収めておいてください。
- スプールやマガジンが現像液や定着液などで汚されていると，フィルムにシミが生じたりマガジンを錆させたりしますから，きれいに拭いて使用することが大切です。

3 → 4 → 5 → 6 → 7



フ ィ ル タ ー

40mm (50mm F 1.8用) 48mm (50mm F1.4用) 55mm (50mm F1.2用) 72mm (F 0.95用) ねじこみフィルターが各種用意されており、黒白フィルム、カラーフィルムに対してそれぞれ特有の効果をあらわします。

露出倍数	種 類	フ ィ ル タ ー 効 果
1	UV(SL39・3C)黒白, カラー共用	<ul style="list-style-type: none"> 紫外線だけを吸収し、各色光には無影響です。海浜、高山などの紫外線の多い所では特に有効です。カラー撮影の常用フィルターとしてもおすすめします。
1.5	Y1 (SY 44・2C)	<ul style="list-style-type: none"> 黒白フィルムに利用して、写すもののコントラストを強めます。海の色を整えたり、青空をおさえて白雲を浮き出させます。赤や黄色は多少明るくなります。 青色はかなり暗く、黄や赤が見た目より大分明るくなります。コントラストを強調し遠景には特に有利です。 コントラストを強調し場合によっては白昼の調子も夜景に近くなります。赤外フィルムに併用するフィルターでもあります。
2	Y3 (SY 50・2C)	
3	O1 (SO 56・2C)	
6	R1 (SR 60・2C)	
3	G1 (MG 55 C)	<ul style="list-style-type: none"> 赤が極端に白くなるのを防ぎ、空や顔を適当な明るさの調子にし、新緑などの明るさもそのまま表現します。
1	スカイライト	<ul style="list-style-type: none"> 青空や木蔭の色を自然に近づける作用をします。
4	ND 4	<ul style="list-style-type: none"> ND 4 は 1/4, ND 8 は 1/8 に光量を減じます。カラーの色再現性には全く影響がありません。
8	ND 8	
2	カラーコンバージョン A	<ul style="list-style-type: none"> タングステンタイプフィルムを太陽光下で撮影する場合に色温度を転換するカラー専用のフィルターです。 デイトタイプフィルムを電灯光下で撮影するための色温度転換フィルター。
3	カラーコンバージョン B	

フィルター倍数の補正

フィルターを使用するときは、フィルター倍数の分だけ多く露出をしなければなりません。

調節のしかた1 フィルム感度を変える方法

- ・使用フィルムの感度をフィルター倍数で割る。その数値がフィルター使用時の感度ですから、フィルム感度を合わせ直す。

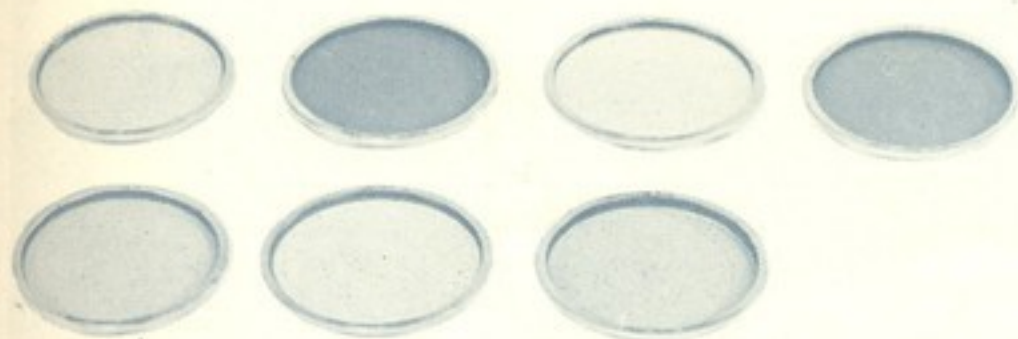
たとえば ASA 100 のフィルムに Y3 (露出倍数 2) のフィルターを使う場合の補正感度は

$$100 \div 2 = 50$$

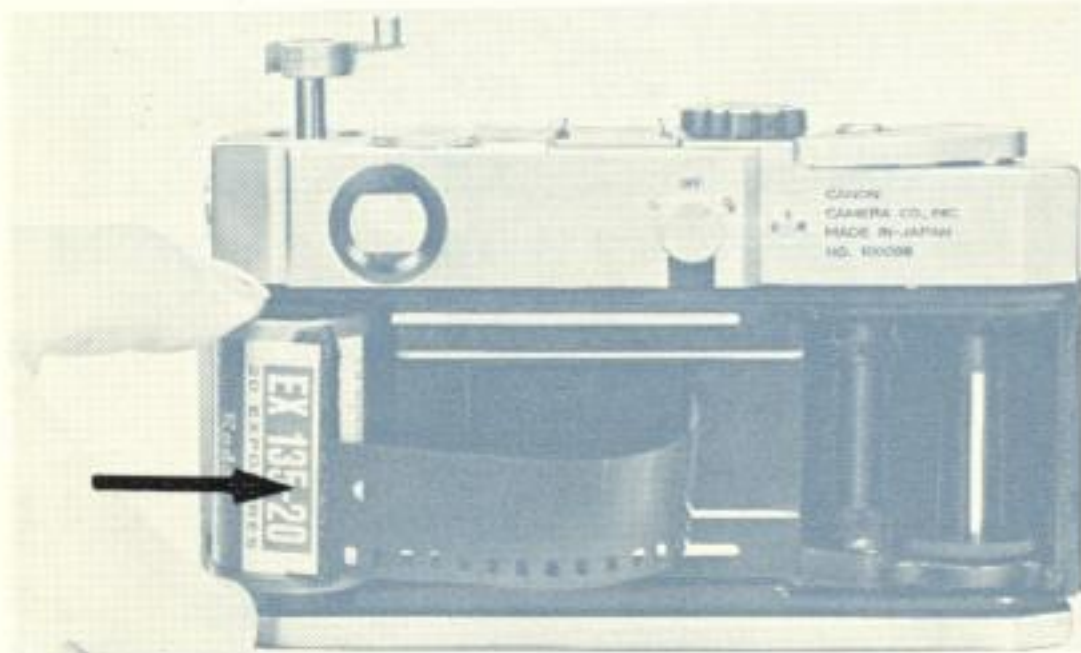
つまり ASA 50 にセットし直せばよいわけです

調節のしかた2 絞りとシャッターの調節

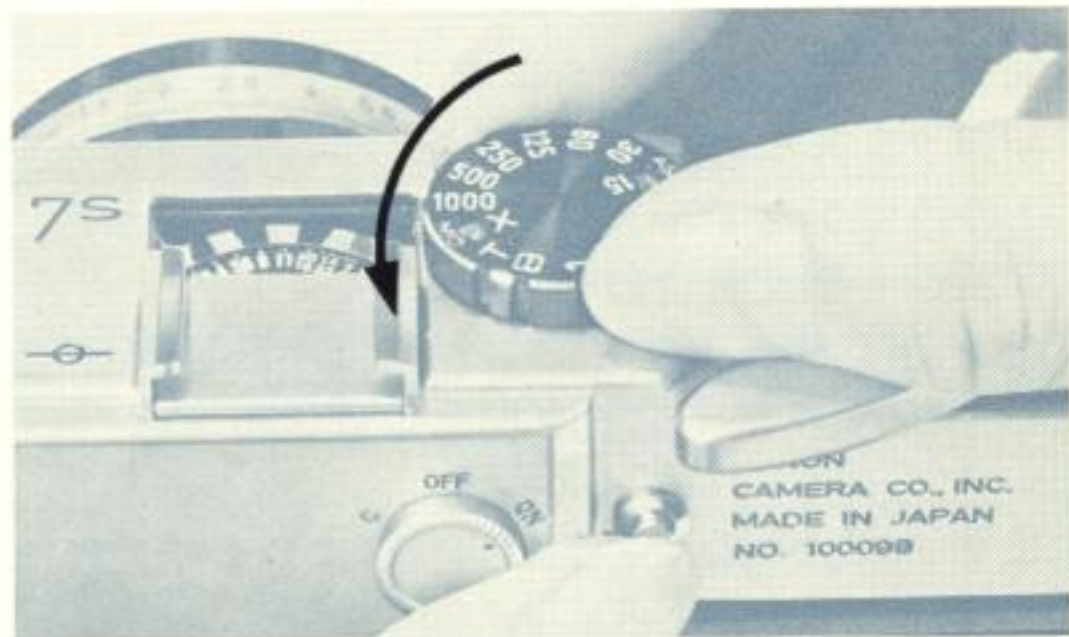
- ・普通に露出の調節をしたのち、フィルター倍数にしたがって絞りまたはシャッタースピードのいずれかを調節します。絞りもシャッターも目盛は倍数関係になっていますから、2倍のフィルターでは1目盛、4倍のフィルターなら2目盛露出を多くかけてやります。



撮 影 の 手 順



1 フィルムをつめる

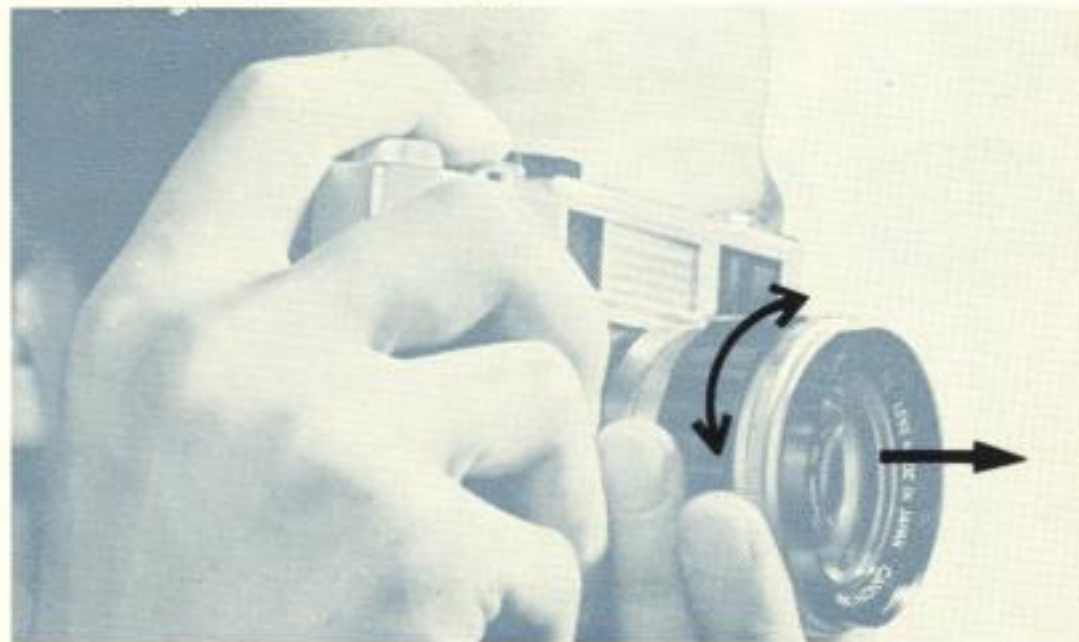


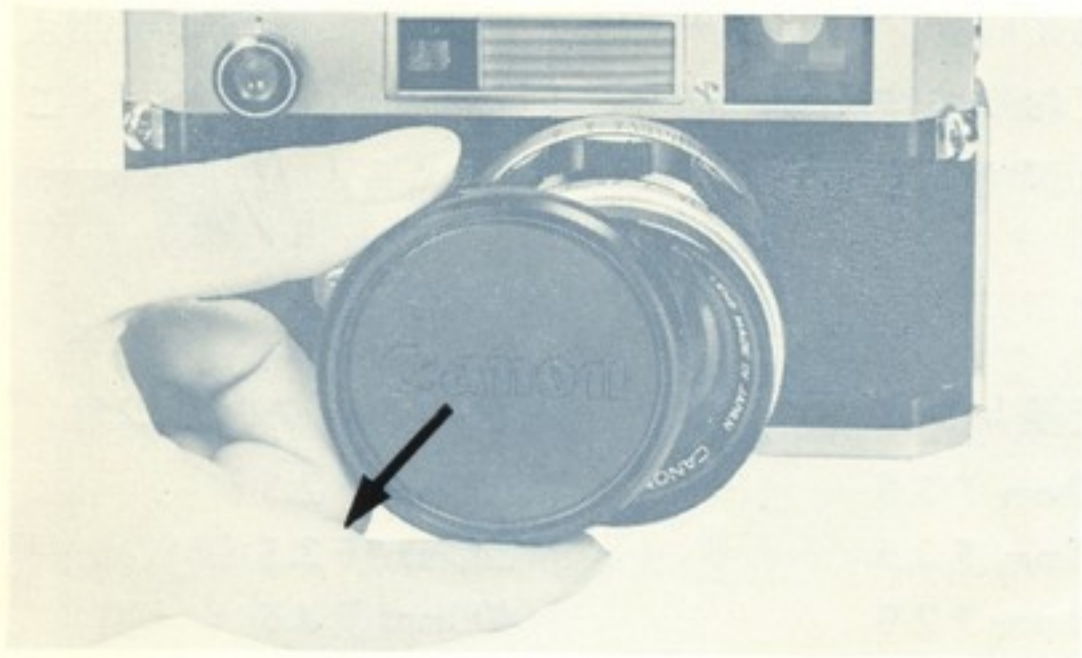
2 フィルム感度を合わせる

5 メーターで露出をきめる

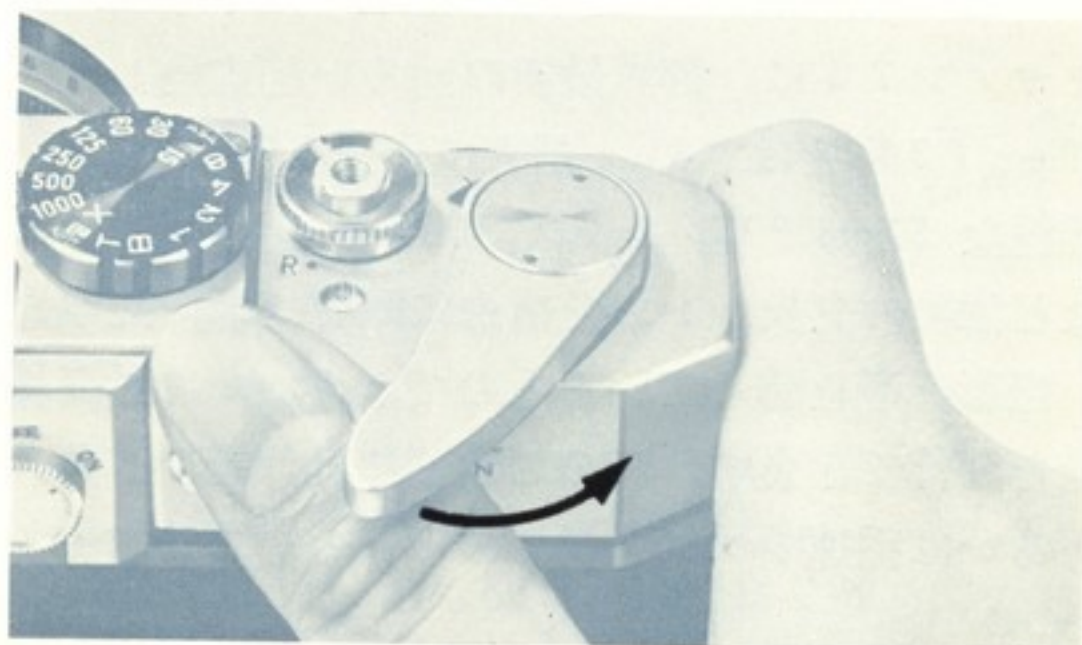


6 ファインダーをのぞく



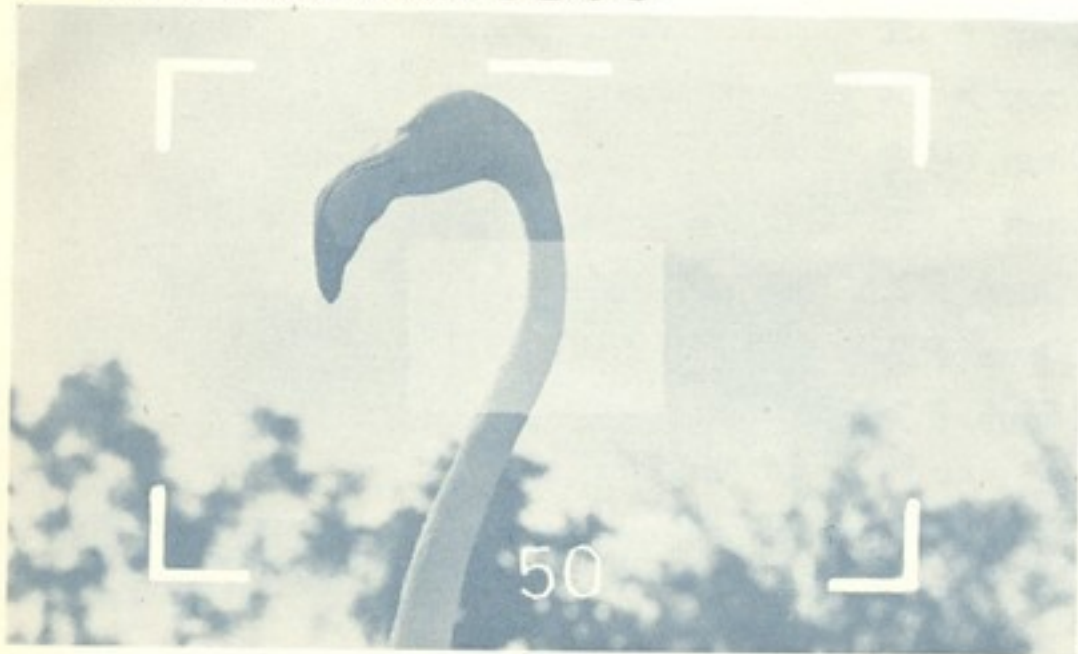


3 キャップをはずす

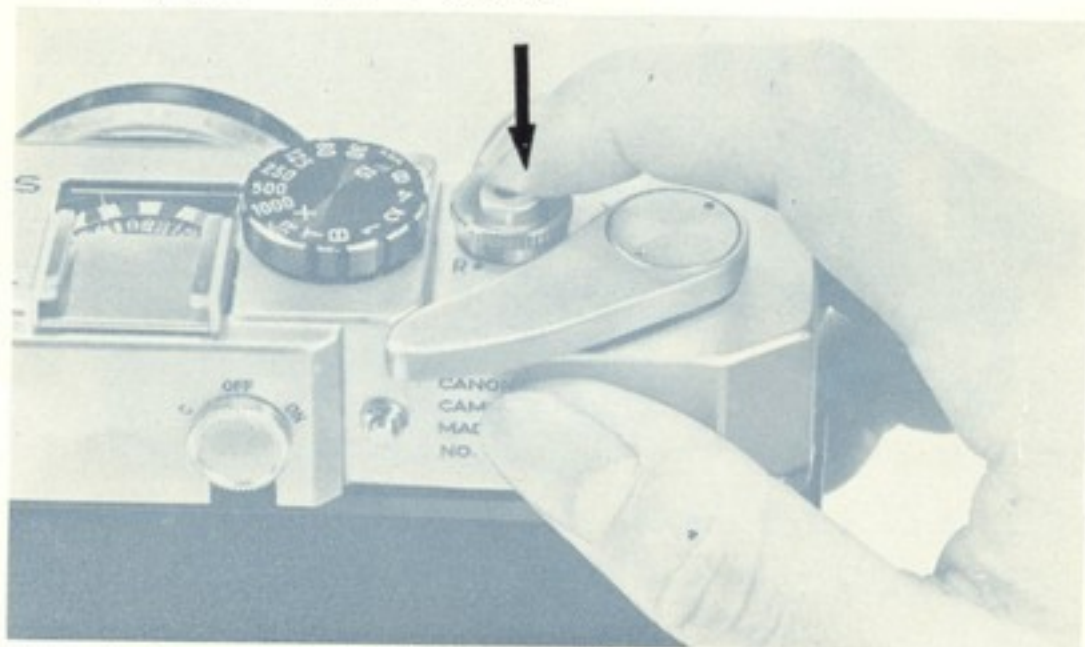


4 レバーを巻上げる

7 ピントを合わせ構図をきめる

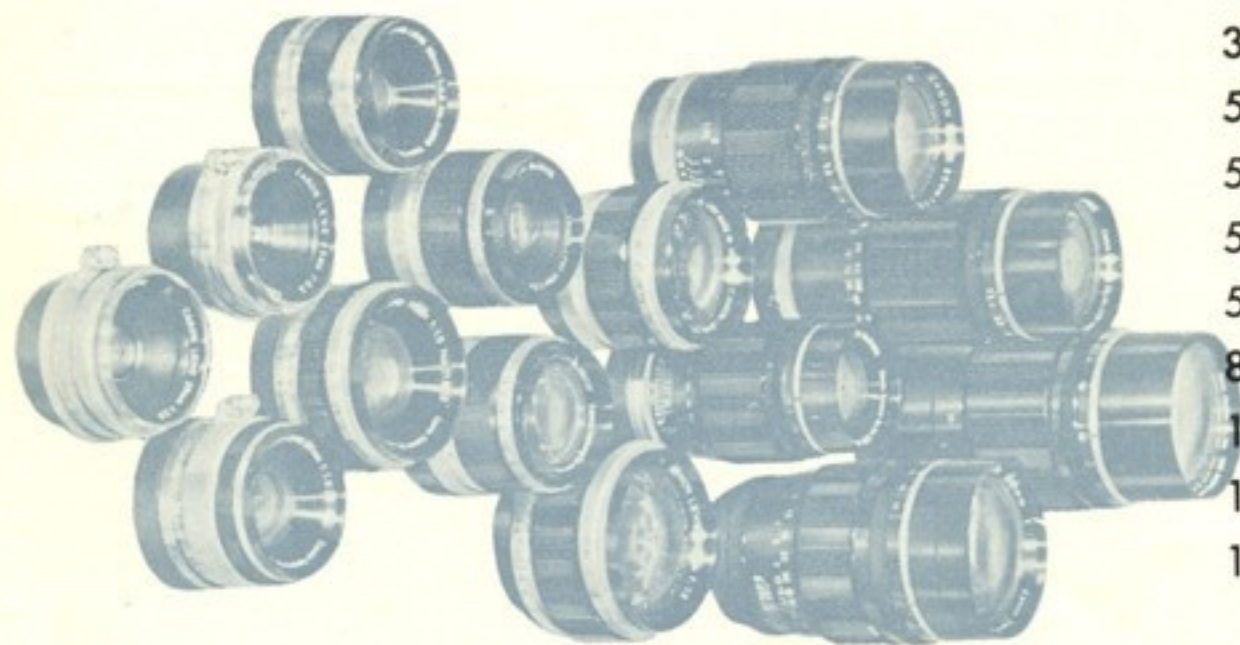


8 シャッターボタンを押す



レンズとアクセサリ

キャノン7Sは、世界最新の明るい超広角レンズ19mm F3.5をはじめ、超大口径 F0.95 レンズ、鮮鋭な 50mm F1.8 レンズ、1000mm 超望遠レンズなど独特の交換レンズを自由に駆使でき、比類ない撮影分野を誇っているもので、35mmの最高機能を期待できます。7Sのご愛用には、ぜひ広角、あるいは望遠レンズを撮影の伴侶としてお求めく



ださい。

また、直ちに必要とする フィルター フラッシュなどのアクセサリ類も、きわめて豊富に取揃えておりますゆえ、必要に応じてお選びいただくことができます。

交換レンズ

19mm F 3.5
25mm F 3.5
28mm F 2.8
35mm F 1.5
35mm F 2
50mm F 0.95
50mm F 1.2
50mm F 1.4
50mm F 1.8
85mm F 1.8
100mm F 3.5
100mm F 2
135mm F 3.5

ミラーボックスIIつき

M135mm F 2.5
M200mm F 3.5
400mm F 4.5
600mm F 5.6
800mm F 8
1000mm F 11



シンクロフラッシュソケット

裏蓋止め金

裏蓋開閉つまみ

三脚ねじ穴

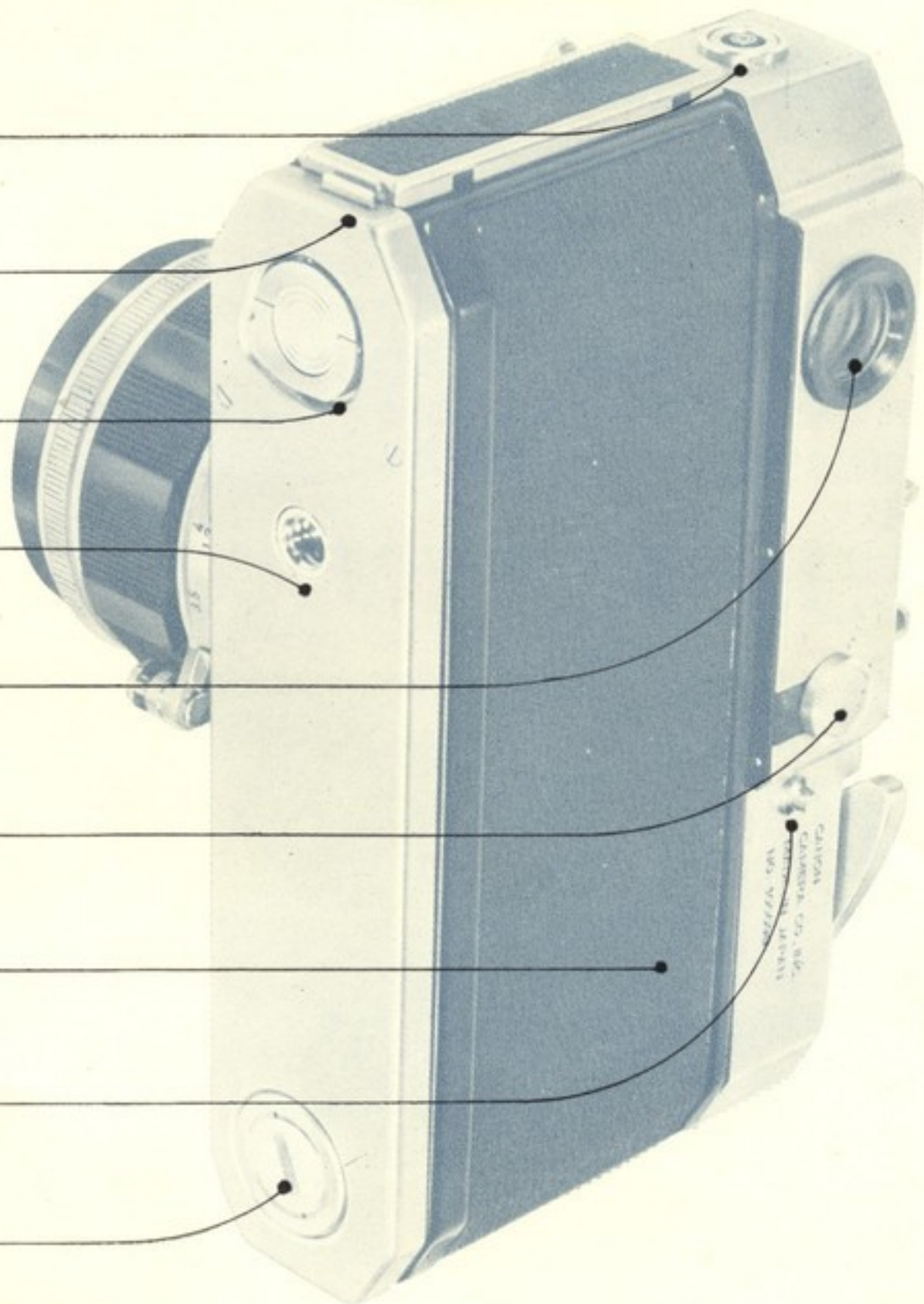
レンジ・ビューファインダー接眼窓

メーター回路切換えスイッチ

裏蓋

フィルム感度セット用押しボタン

水銀電池室



主なアクセサリ

フィルター 40mm 48mm 55mm 58mm 72mm 各種

フラッシュ V-3 3,300円 ケース 200円

フラッシュ クイント (ケース付) 2,950円

スピードライト100 8,100円 ACコード 450円

ケース 250円

スライドスター 300 (ケース付) 8,400円

レンズフード各種

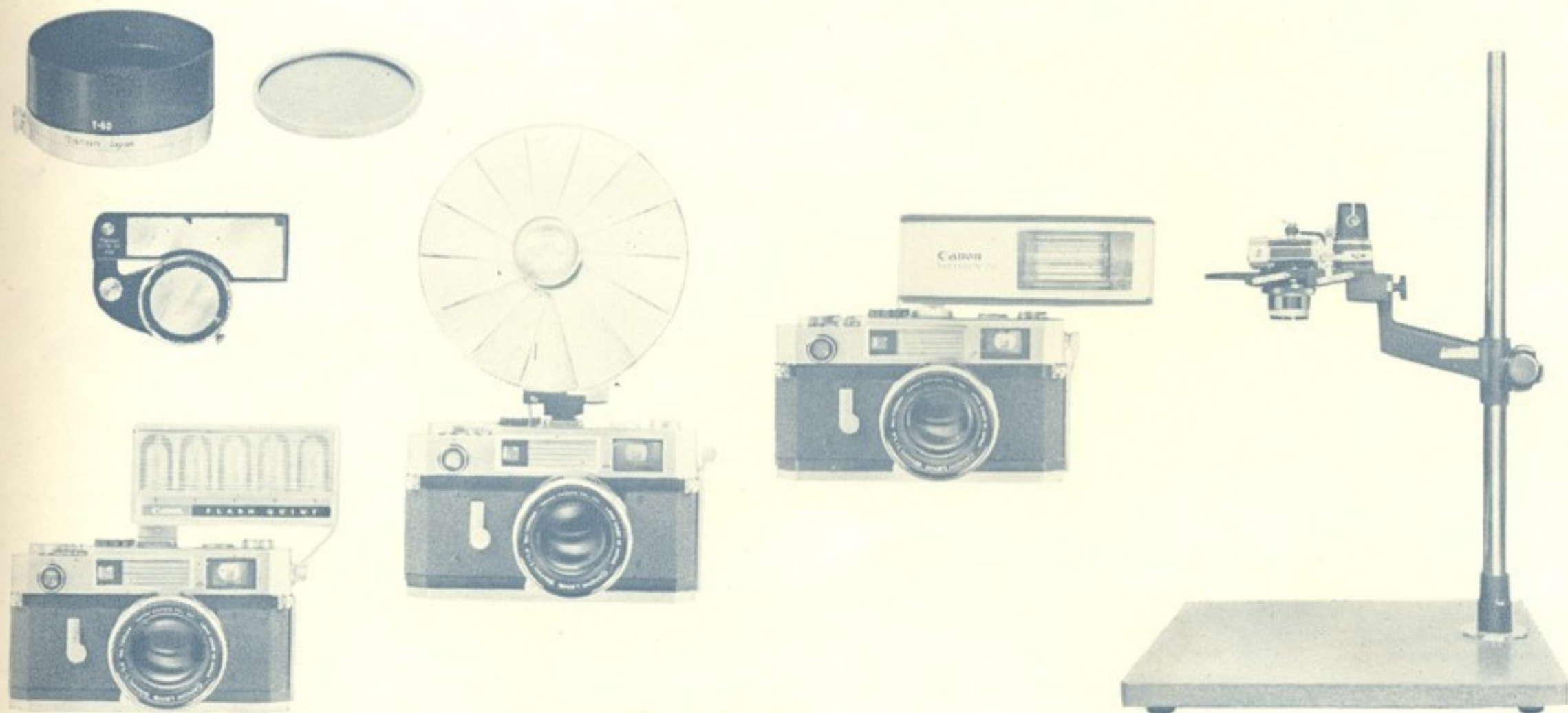
フィルムマガジン V 550円

オートアップ 各種 標準レンズ用

キヤノンレリーズ 250円

複写装置3 21,400円

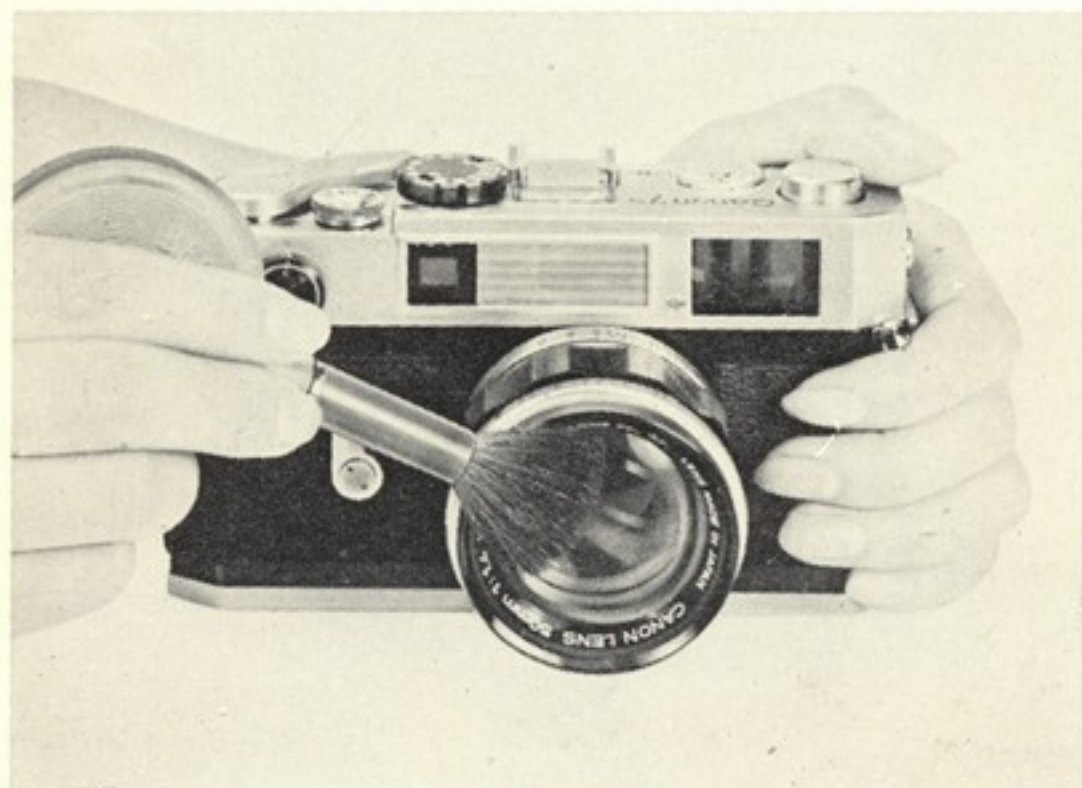
ファインダー 19mm 25mm 28mm 各種



カメラの保存と手入れ

カメラを保存するのに高温と湿気は禁物です。筆筒など密閉した中に長くおくのも感心しません。むしろ機会あるごとに撮影されることがカメラのためによく、特に梅雨期などはなるべく乾いた外気に触れさせるのが望ましいことです。写真暗室や化学薬品の多い室におくのもよろしくありません。

しまう場合には水銀電池をぬき皮ケースをはずしておきましょう。



カメラの手入れ 野外で使ったカメラはほこりが付き易く、また雨の日や海辺で使ったときは、気付かないうちに水滴や塩分を受け勝ちなので、放置するとシミや錆を生じ、またレンズの焼けや腐蝕の原因になります。このような際は、柔い刷毛で埃を払い、更に乾いた柔い布で丁寧に拭きます。油類は使用しない方が安全です。汗の指で触れるのも禁物です。

レンズの手入れ レンズにはなるべく手を触れないのが安全で、柔い刷毛か羽で軽く埃を払う程度に止めたいのですが、やむを得ないときは、洗いさらした柔い清潔な綿布を棒に細く巻き、先端にわずかしめる程度のアルコール（エーテルを少量まぜても可）を付け、レンズ面の中心より外側に渦巻きを描くようにして軽く静かに拭きます。拭くそばからアルコールが乾いていく程度が良好です。強く拭いたり、ほこりのついているままで拭くとかえってキズを付けますから注意が大切です。

- カメラを海中に落とすと殆んど修理不能です。カメラ店またはサービスステーションへご相談ください。

- キヤノン7S型にはどのキヤノンレンズでも使用できますが50mm F 3.5, 50mm F 1.9のような沈胴式レンズの場合は、速写ケースに納めるときも常に鏡胴を引出したままにしておいてください。

キヤノンカメラ株式会社

東京・大田区下丸子町312 電話 738 大代表 2111

営業所・サービスステーション

銀座	東京都中央区銀座5-3	(吹原ビル1階)	電話 572-4271-3
八重洲	東京都中央区八重洲3-1	(大久保ビル2階)	電話 271-0391-2
大阪	北区梅田2	(第一生命ビル2階)	電話 361-1261
名古屋	中村区広小路西通3	(大商ビル6階)	電話 58-3811-4
福岡	天神1-11-17号	(福岡ビル9階)	電話 76-2818-1061
広島	広島市幟町14-11号		電話 21-4615-6
札幌	北三条西4-1	(第一生命ビル4階)	電話 23-5788-22-7322
仙台	東一番丁68	(富士ビル8階)	電話 25-0215-7
新潟	新潟市東大通1-23	(マルタケビル7階)	電話 4-0758-9
静岡	静岡市御幸町9-2	(大吉野ビル2階)	電話 54-3936

